

NANGOKUNANGOKUNANGOKU

特定非営利活動法人

VOL.24

南国暮らしの会

2004年春季号



平成 16 年 4 月 24 日



NPO 法人 南国暮らしの会

NANGOKUNANGOKUNANGOKU

目 次

表紙	頁
----	---

目次	1		
平成16年度 南国暮らしの会総会、情報交換会、懇親会の案内	2～3		
平成15年度 事業報告書（案）	4～7		
平成16年度 事業計画書（案）	8		
平成16年度 特定非営利活動に係わる会計収支予算書（案）	9		
NPO法人「設立5年目」を迎えて	理事長 池田徳三郎	10	
南国暮らしの会 創設時の思い出	No. 101 高澤 弘晃	11	
「南の会」に、人生の友あり	No. 318 小林 高明	15	
海外渡航への夢	No. 479 中緒 正	16	
友好団体紹介	・チェンマイ・ロングステイライフの会		17
	・ワールドステイクラブ		18
	・バギオ日本人会 会友 山田 勝也	19	
格安 ゴルフ遍路	No. 18 木村 義光	21	
海外旅行の夜明け前	No. 428 岩瀬 光子	22	
「優しさに感動し、優しさが社会を動かす」	No. 341 平野 雅一	25	
ビギナーの セブ島ステイ	No. 670 今野 力男	29	
サイパン・ロタ島テレビ取材協力	No. 363 赤嶺 良彦	31	
Cambodia Tour Report	No. 697 新居 幹雄	33	
アッと言う間の コタキナバル 3ヶ月	No. 666 小野田 恵美子	37	
北ボルネオ探訪記～癒しの楽園ワンドーランドへ	No. 500 下田 隆士	38	
初めての バリ旅行	No. 696 加藤 明	41	
	No. 524 川崎 勇	45	
海外ゴルフ情報	・ゴールドコースト		47
	・タイ・バンコク国際G・C		47
	・マレーシア ペナン、ケダ州		48
九州第1回総会立上げ奮闘記	No. 128 稲延 豪	49	
東海支部活動状況の報告	No. 487 横井 保夫	51	
会主催旅行会に関するアンケート調査の結果報告	(調査委員会—小林康紀・市東明義)		53
ペナン支部からの要望	ペナン支部長 木村 義光	55	
海外会員への心遣い	副理事長 宮崎 哲郎	56	
編集委員より			58

平成16年度南国暮らしの会総会

及び情報交換会、懇親会のご案内

理事長 池田 徳三郎

薰風の候、皆様方におかれましては益々ご健勝の事と存じます。

さて、恒例の年次総会を下記の要領にて開催致しますのでご出席賜わりたくご案内申し上げます。ご出席出来ない方は必ず添付の別紙委任状をご提出願います。

記

1. 日時:(1)総会 :平成16年5月30日(日)午前10時半~12時

: (2)情報交換会:同日午後1時~2時半

: (3)意見交換会:同日午後2時半~4時45分

: (4)懇親会 :同日午後5時15分~8時半

2. 場所:東京都南部労政会館(JR大崎駅南口徒歩3分)案内図参照

東京都品川区大崎1丁目11-1ゲートシティ大崎ウエストタワー2階、

電話 :03-3495-4915

緊急連絡先 :宮崎 090-2907-8340

:高澤 090-3549-1957

3. (1)総会 :議題 ・平成15年度事業報告及び決算報告

・会計監査報告

・平成16年度事業計画及び予算案

・監事改選・理事改選

・定款及び細則変更 ・その他

(2)情報交換会 「タイ・マレーシア・フィリピン・ベトナム・ラオス

・カンボジア各国の政治経済より考察した

ロングステイ適地と各国裏話」

国際コンサルタントマイク 浅野氏

(3)意見交換会 :・南の会の現状と将来像、質疑

池田 理事長

・国内支部長ご紹介と挨拶、支部現状報告

・各委員会の役割と現状説明、質疑

(4)懇親会 「フェスタガーデン」

4. 会費: 情報交換会 :500円、 懇親会:飲む方 2,800円、

飲まない方 1,700円

5. 総会は議案を本会報に掲載し、その内容を全員の皆様に事前に検討して頂きます。

掲載事項の詳細説明は省き、質疑応答から開始し効率良く議事進行を図りますので皆様のご協力をお願い申し上げます。

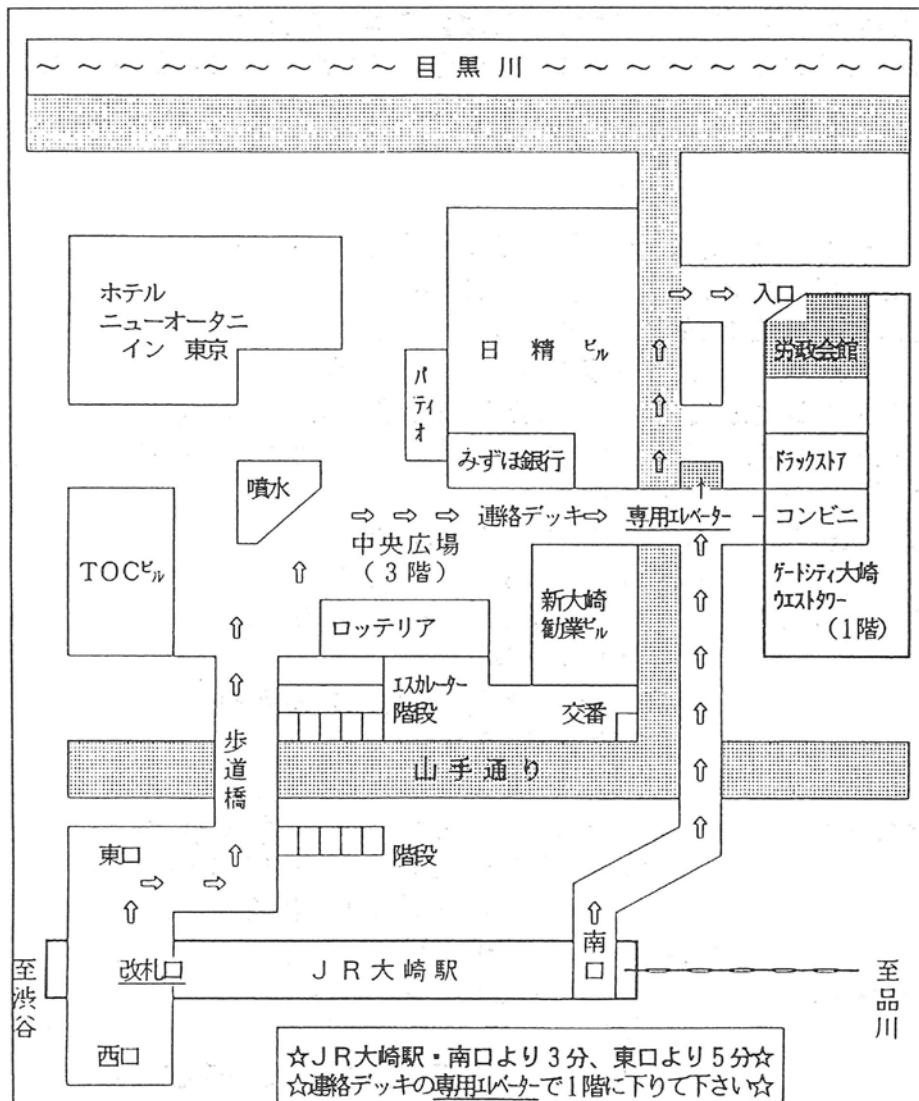
したがって、当日は、本会報及び添付総会資料を必ずご持参下さい。

* 会場への案内図は、次ページをご覧ください。

南部労政会館・案内図

◇東京都大崎労政事務所・南部労政会館◇

品川区大崎1-11-1 ゲートシティ大崎・ウエストタワー2F
TEL 03-3495-4915 FAX 03-3495-4916



寄付金報告 (新年号掲載分以降)

ありがとうございました 梶村 真一氏 (No. 281)	2,391 円
平野氏を囲む会出席者一同	2,300 円
池田 徳三郎氏 (No. 3)	50,000 円

平成15年度 事業報告書（案）

(平成15年4月1日から平成16年3月31日まで)

特定非営利活動法人 南国暮らしの会

理事長 池田 徳三郎

1. 事業の成果

1) 法人の組織活動の充実

理事の業務執行の状況、財産の状況等をより精査するために、総会の決議により、監事の定数を2人から3人に増加しました。また、理事の担当業務を2人以上、会報担当理事の4人制を継続し、当該業務の充実に配慮しました。

担当理事は担当事項の諸案を理事会に提案して、理事会において審議し、決定し、決定事項を各種委員会と協力して実施することをより強化するために「委員会の内規」の整備と「監査基準」の明文化等に努めました。

2) 経営基盤の確立

非営利活動法人として、新規の営利事業はしない意向にあります。しかし、次年度にNPO法人設立5周年を迎えるに際し、健全な収支の均衡を図るため、会員のご厚志・ご協力による寄付金を本年度から前向きに受け入れることとしました。

前掲の法人の組織的活動の充実と併せ財務基盤の健全を謀り、充実した業務遂行に役立つ健全経営の確立に勤めた成果を次年度以降に継続しました。

3) 法人の組織活動の透明化

法人の組織的活動は会費と会員相互のボランティアの2つの主柱により支えられておりますが、組織活動・財務状況が、ガラス張りで、透明でなければなりません。その一環として、予算委員会から担当理事・国内支部の要請を求めるシステム[計画と予算P&M等]を整備しました。

他方、前年に引き続き「規定集編集委員会」は理事会で決定した細則等を整理、編集し、「規定集」を会員等に配布しました。

4) 支部の組織的活動

各支部の組織化を目指してきましたが、3月に関西支部の役員が整備され、4月に関東支部の役員が更に整備される等支部の組織化が推進され、支部連絡網の整備等とともに会員間の相互交信・親睦がより密になることが期待されます。

今後、国内の支部活動は支部長を軸に会員の自主的で前向きの参加とアクティブな協力が得られれば、創造的な新しい活動に膨らみ、より楽しい地域に密着した特徴ある支部に変貌出来ます。支部単位の大飛躍を期待します。

今年度は北海道支部、東北支部が関係者のご努力で新設することが出来ました。

5) 海外支部の動向

会員の海外支部の訪問が、例年なく急激に多くなり、海外支部長及び会員の皆様にお世話になりました。しかし、マナーに欠ける不愉快な一部会員が居られたことは誠に残念至極です。海外会員は、海外での家族生活のスケジュール、近隣とのご予定等がありますので、それを無視した思いやりのない自己中心の依頼は慎み、現地の先輩としての畏敬の気持ちを忘れずにコンタクトして頂きたいと切望します。

バンコク支部長は住所の変更のため、チェンマイ支部長は帰国のため、それぞれ支部長を辞任されました。皆様と共に五十嵐バンコク支部長様、鈴木チェンマイ支部長様の長年のご功績・ご貢献に対し惜しみない感謝と御礼を申しあげたいと存じます。

バギオ支部の設立と斎木支部長が内定しました。

6) 厚生活動（海外の医療・介護等）

当会の重要な厚生活動業務を充実するため、厚生担当理事を新設して、2年目を迎えますが、その間、海外の医療・介護の情報収集に努め、整備し、さらに「医療介護調査委員会」と密接な協力のもと、専門委員参加によるご苦心の成果が実り、次年度中の出版の見通しが立ちましたことは、誠に慶祝の極みであります。

7) 海外との交流

今年度は正副理事長のほか、多くの理事が海外支部及びその周辺を訪ね、大きな成果を挙げました。チェンマイ日本人会（CLL）、バギオ日本人会と友好関係を締結することが出来、今後はバンコク日本人会、KL日本人会と同様に相互に情報交換がフォーマルに行われます。

8) 東カリブ海周辺クルージング

ワールドステークラブのお誘いを受け、成田～シカゴ～オーランド経由（11月13日から12日間）の豪華客船でのクルージングに29名が参加し、国際交流の貴重な体験をしました。

9) 当会会章の商標登録

10月特許庁に「当会会章」の商標登録申請を行ないました。順調に審査されれば、今年10月頃登録される予定です。

2. 事業の実施に関する事項

1) 会報作成／発行

春季号 (NO. 20) : 15年04月26日発行 (78頁)

夏季号 (NO. 21) : 15年07月26日発行 (70頁)

秋季号 (NO. 22) : 15年10月25日発行 (60頁)

新年号 (NO. 23) : 16年01月24日発行 (58頁)

2) 内外通信関係

①ホームページ

「南国暮らしの会」ホームページは、会員、及び新規加入者に会の活動を知らせる手段として役立っており、更なる内容の充実を図っています。特に会の活動を逐次掲載することによって、会の広報として役立ったと考えています。この活動を今後更に広めるためホームページ内容の一新、利用されやすいアドレスへの変更も考えています。

②メーリングリスト (ML)

ML利用者は今年度大幅に増加し、現在新入会員の殆どはML利用者であり、3月末時点では300名以上の方々が加入されています。MLによって現在、海外会員を含めた会員相互の情報交換が短時間でスムーズに行なわれています。今後はより身近に利用出来る運用ルールの改定を行い、更に利用しやすいMLに発展させ、会員相互の情報交換の更なる利用を目指します。

3) 支部活動関係

①関東支部会

1) 情報交換会

第1回情報交換会 (15.5.31) : カンボジア・ラオス・チェンマイ・バリ島の情報 (70名参加)。

第2回情報交換会 (15.11.29) : 東カリブ海クルーズ・海外での病気・犯罪防止 (90名参加)。

2) ミニ情報交換会

15年度ミニ情報交換会は3回行われ、平均20名の方が参加されました。フィリピン居住者(セブ・ダバオ・バギオ)3名の方のご帰国に合わせて開催されました

3) サロン会

15年度サロン会は合計10回開催され、平均32名の方が参加されました。今年度になって、参加者が俄然多くなり、平均55名以上の状態です。新入会員の方々の参加が多いのが特徴です。また最近会場が取れにくくなつきましたので、第2日曜日の開催が続いています。

②関西支部会

1) 夏季例会 (15.6.15) 外部講師2名、会員3名の講演、新役員紹介他 (35名参加)。

2) 秋季例会 (15.10.26) 会員2名の講演他 (46名参加)。

3) 臨時支部総会 (16.3.14) 下記役員の選出、会計報告、会員2名の講演他 (47名参加)。

支部長 森川清氏 (No. 51), 副支部長 三谷昌鴻氏 (No. 147),

会計 吉田孝輝氏 (No. 588), 総務・広報 大木研一 (No. 618)

4) 支部ミニ会合 (15.8.4) ペナン石原氏を囲んで (8名参加)。

5) 支部ミニ会合 (15.11.29) チェンマイ伊沢氏を囲んで (13名参加)。

③九州支部会

- 1) 支部総会(15.7.12) 池田理事長、九州L.S同好会代表井出氏ほか47名参加。
- 2) 支部サロン会(15.9.27) スペイン名誉領事芝山氏他21名参加。

④甲信越支部会

女神湖畔(長野県立科町) 泉郷プラザホテル一泊旅行会(15.7.25~26)(11名参加)。

⑤東海支部会

- 1) 定例会 下記4回実施、1回目は池田理事長が講演、4回目は長島温泉ガーデンホテルで新年会をかねて実施。

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| i) 15.04.13 49名参加。 | ii) 15.07.13 33名参加。 |
| iii) 15.10.12 34名参加。 | iv) 16.01.11 47名参加。 |

- 2) サロン会 合計9回実施(内2回は平日開催) 平均19名参加(最大27名)。その内3回でタイ語セミナーを開催、タイに行く人には好評であった。16年度は英会話セミナー、パソコン講座を計画したい。

- 3) 役員会実施(15.5.26) 参加者合計13名。

- 4) その他 16.2.7から総勢20名以上のチェンマイ体験ツアーを実施した。

⑥北海道支部会(平成15年10月発足)

- 1) 設立総会(15.10.5) 登録会員20名中16名、宮崎副理事長、家族会員、非会員含め27名参加。
- 2) 会員の集い(16.2.21) 登録会員24名中15名、家族会員含め20名参加。支部役員を選出した。広大な土地に少人数で、しかも60歳未満が半数を占めており、いかに会員にとって有効な集まりであり続けられるかが当面の課題である。

⑦東北支部会(平成15年10月発足)

設立総会(15.10.25) 会員8名、池田理事長、非会員4名計13名参加。自己紹介、役員選出、活動計画、講演(講師池田理事長・氏家孝氏)、懇親会(参加者全員参加)。

⑧チェンマイ支部会 サロン会(16.2.24) 35名参加。

⑨ペナン支部会 サロン会(16.2.10) 12名参加。

⑩セブ支部会 サロン会(16.2.20) 11名参加。

4) 広報活動

会員の皆様のご協力を得て、マスメディアの取材等に対し、今年度も積極的に対応してきました。

①出版物(会員が会に関し執筆した本、雑誌等。また取材等で、会を紹介したもの等)

- 1) 「国際人流」第195号、15年8月号 P32~35 財団法人入管協会発刊、「タイにおける在住日本人向け医療、日本との医学交流」池田理事長著;タイの医療機関、治療費その他を詳述。南の会のホームページ、酒匂会員担当理事のメールアドレス等を掲載する。
- 2) 「アサヒ芸能」15年9月4日号「年金でリッチに暮らす、これが海外楽園ベスト5だ」酒匂・宮崎量副理事長、藤本ペース支部長、戸田智弘会員:フィリピン・タイ・オーストラリアに関し執筆または談話した記事。
- 3) 「じじばばネパールへ行く」(見た・踊った・暮らした・歳などとてるヒマはない) 本の森発刊^く 水谷郷著;79歳の会員が現地の人たちとの交流とその奮戦記
- 4) 「海外で気持ちよく暮らそう」15年12月1発行 自由国民社発刊;多くの会員が東南アジア他に関し、分担執筆する。池田理事長、酒匂副理事長ご夫妻、高澤理事、鈴木剛理事、市東理事ご夫妻、小川元理事ご夫妻、稻延九州支部長、鈴木宣夫チェンマイ支部長ご夫妻、木村ペナン支部長ご夫妻、阿部功顧問、平沢信顧問、水谷卿、橋本ご夫妻、小林繁之殿等。
- 5) 「年金・月21万円の海外2人暮らし」文春ネスコ発刊、立道和子著;ペース、コタキナバル、バリー等を詳細紹述。南の会に関し紹介。
- 6) 「ロングステイースタイル 悠々ペース暮らし」 総合ユニコム発刊、千葉千枝子著;会員鈴木理事のペース滞在記、南の会を紹介。

- 7) 目的別ロングステイすべて「定年後を海外で暮らす本」 16/3/8 発行 「日本経済新聞社」
中村聰樹著 ; 海外情報のサポート機関として「南の会」を紹介。
- 8) 別冊シニア 「ハピーリタイアメントのために今すぐ準備する本」 「ダイヤモンド社」;
ペース支部長藤本ご夫妻、セブ鈴木支部長、チェンマイ宮沢ご夫妻を紹介。
- 9) 「季刊ラシン」春号 16 年 3 月末発行。宮崎副理事長の当会紹介記事、藤本ペース支部長御夫
妻、鈴木セブ支部長、チェンマイに関する宮澤甲信越支部長御夫妻のいずれも写真入紹介。

②新聞 (会員が会に関し執筆した記事、取材等で会を紹介した記事)

- 1) 「産経新聞全国版」 16 年 2 月 2 日発刊 (7 段記事) 「海外で見つけた第二の人生」; 海外
で第二の人生を探す初めての体験、文化を学び、ボランティアなどで交流、退職者ビザ等。
池田理事長の談話掲載。
- 2) その他日本経済新聞にも紹介されました。

③テレビ

- 1) テレビ東京「ガイアの夜明け」 15 年 8 月 チェンマイの会員出演
- 2) テレビ東京「ハピーリタイヤメント」 16 年 1 月 1 日 チェンマイ・スビック・ケアンズ
等の放映。チェンマイ在住の会員出演。
- 3) テレビ東京「大丈夫我が家の財産 海外移住」 16 年 1 月 5 日 : ペナン編 木村ペナン支部
長・石原ペナン副支部長、大橋績会員出演。
- 4) テレビ東京「ハピーリタイヤメント」(16 年 3 月 29 日 21 時~22 時 45 分) ロタ、チ
エンマイ、ペナン等の会員が多く出演。関東支部「サロン会」の様子等も放映され、初めて「視
聴者からの問い合わせ」が多数ありました。

5) 会企画旅行会アンケートの実施

例年行っていた旅行会、14 年度参加者が非常に少なかったため、15 年度は実施せずアンケー
トによる会員意識調査を行ないました。その結果、会企画ロングスティツアーに興味のある会員
は 15 % 以下という結果となりました。本件今後どう取り進めるか再検討いたします。

3. 会の管理に関する事項

1) 総会関係

平成 15 年 5 月 31 日、会員 155 名 (うち委任状 114 名) が出席して実施。

2) 理事会関係

平成 15 年度総会以降、平成 16 年 3 月まで下記により 7 回実施。次期総会まであと 2 回実施
予定。審議内容については添付議事録参照。

第 1 回理事会 : 平成 15 年 7 月 13 日、理事 13 名出席。

第 2 回理事会 : 平成 15 年 8 月 24 日、理事 10 名出席。

第 3 回理事会 : 平成 15 年 9 月 20 日、理事 13 名出席。

第 4 回理事会 : 平成 15 年 11 月 1 日、理事 10 名出席。

第 5 回理事会 : 平成 15 年 12 月 14 日、理事 12 名出席。

第 6 回理事会 : 平成 16 年 1 月 25 日、理事 9 名出席。

第 7 回理事会 : 平成 16 年 3 月 28 日、理事 11 名出席。

第 8 回理事会 : 平成 15 年 4 月 11 日実施予定 (16 年度事業計画・予算の審議・承認など)。

第 9 回理事会 : 平成 15 年 5 月 9 日実施予定 (15 年度決算の審議・承認など)。

3) 役員会関係

平成 16 年 1 月 10 日理事 7 名、顧問 4 名参加して実施。当会活動に対する貴重なご意見を
戴いた。

4) 会員動向

平成 16 年 3 月末現在の会費納入会員数は 513 名 (内 16 年 1 月以降の入会者は 45 名) となっ
ております。

以上

平成16年度 事業計画(案)

(平成16年4月1日～平成17年3月31日)

特定非営利活動法人 南国暮らしの会

1. 事業の方針

(1) 新規事業

- ①NPO法人5周年記念行事を11月に実施することとし、そのために記念行事委員会を設け、具体的な内容を立案し、理事会で決定し、来賓・報道関係者等にも公開する。
- ②南の国々の医療に関する調査研究の成果を出版し、一般に公開する。
- ③各支部内の近隣会員相互の連絡網を整備し、会員相互の情報の共有化と同好の会を通じ相互の親睦をより密にする。
- ④寄付金を受理した場合の受け入れを含め経理処理のPC化に関し調査研究する。

(2) 繼続事業

- ①支部の組織的、計画的活動のさらなる充実、推進及び1人でも多くの会員参加を推進する。
- ②南の国々の医療等に関する調査研究を継続する。
- ③情報交換会、講演会、サロン会、支部会、旅行会を開催し、会員相互の研鑽と懇親を深め、併せてこれらの活動に非会員の臨時参加を推進する。
- ④会報、新規会員増大のためのPR資料の充実並びに退会理由の調査を継続する(退会者は会則に則って「退会届」を提出するようにPRする)。
- ⑤わが国の退職者等を歓迎する国々の情報を引き続き収集・調査し、それらの資料を公開する。
- ⑥拡大準備積立金の有効使途の具体化の検討を継続する。

2. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施予定	実施予定場所・内容	備考
会報作成	会報発行(新年・春・夏・秋)	年4回	表紙のカラー化継続	会員相互の情報の周知
会報発送	会報・同封資料の発送	年4回	流れ作業による正確な発送	約10名/回
資料等製作	問合せ・入会者への資料作成送付	随時	約400件/年	
報告書等製作	会報同封資料の作成	年4回	会員名簿・「必携」の追加資料等の作成	
	海外くらし便利帳・医療編の作成	夏～秋	医療介護調査委員会	
	会創立五周年記念事業	秋	事業内容は実行委員会で設定	
案内書製作	入会案内書・「必携」増刷	春	入会案内書:600部・「必携」:200部増刷	
広報活動	インターネット・メーリングリストの管理	常時	雑誌・テレビ等のマスコミも積極的に活用を計る	情報の公開
情報交換活動・懇親会	情報交換会:関東・関西・東海等 サロン会:関東・東海等	数回/年 1回/月	地域活動の推進	情報収集・調査・研究発表・相互の親睦
支部活動支援	関東・関西・東海・甲信越・九州・北海道・東北・マニラ・セブ・BK・チェンマイ・KL・ペナン・パース	随時	支部活動への補助金支給 国内支部との交流促進	バギオ・ダバオに支部開設予定
通常総会	総会開催	1回/年	東京	
理事会・役員会	理事会・役員会の開催	8回/年	東京	各種委員会随意開催
その他	会章の商標登録	秋	昨秋申請	

(2) 収益事業

事業名	事業内容	実施予定	実施場所	予定人員		見込み額
	なし					

平成 16 年度特定非営利活動に係わる会計収支予算書案(案)

－平成 16 年 4 月 1 日から平成 17 年 3 月 31 日まで－

特定非営利活動法人 南国暮らしの会

(単位 : 円)

科 目	前年度 予算額 (A)	本年度 予算額 (B)	差 異 (B - A)	摘要
I. 収入の部				
1) 入会金収入	600,000	850,000	250,000	入会金 : 5,000 円, 想定新規入会者数 : 170 名
2) 会費収入	2,000,000	2,750,000	750,000	会費 : 5,000 円, 想定継続会員数 : 380 名
3) 資料売収入	200,000	350,000	150,000	想定有料資料請求者数 : 350 名
4) 寄付金収入	0	100,000	100,000	寄付金収入増の推進。
5) 基本金等利息収入	100	100	0	1,000,000 × 0.01%
6) 雜 収 入	20,000	150,000	130,000	5周年記念誌への広告掲載推進など。当会名刺サービス料を含む。
7) 事業拡張準備金より繰入れ	0	500,000	500,000	15年度寄付金総額を事業拡張準備金に振替え、16年度 50 万円を繰り入れ予定。
1. 当期収入合計	2,820,100	4,700,100	1,880,000	
2. 前期繰越収支差額	277,885	190,985	▲ 86,900	
3. 収入合計	3,097,985	4,891,085	1,793,100	1. + 2.
II. 支出の部				
1) 事 業 費	2,457,000	3,625,000	1,168,000	
①会報等事業費	776,000	919,000	143,000	年 4 回発行 ; 表紙カラーの継続
②会報等送料費	352,000	468,000	116,000	年 4 回発行 ; 発送作業量アップ。
③資料等製作事業費	290,000	417,000	127,000	問合せ者増大・担当者増。
④報告書等製作事業費	88,000	898,000	810,000	5周年誌発行・記念品製作。
⑤案内書製作事業費	100,000	170,000	70,000	「入会のすすめ」・「必携」増刷。
⑥内外通信事業費	90,000	—	▲ 90,000	管理費に変更。
⑦広報活動事業費	160,000	106,000	▲ 54,000	情報交換会ビデオ撮影支部配布計画中止。
⑧講師等謝礼費	82,000	82,000	0	支部費として支部に配分。
⑨支部関係事業費	519,000	565,000	46,000	ダバオ・バギオ支部設立・支部との交流の充実。
2) 管理費	400,000	994,000	594,000	
①事務用消耗品費	50,000	102,000	52,000	当会名刺サービス料を含む。
②諸会・交通補助費	300,000	488,000	188,000	役員会・総会出席支部長増。
③内外通信費	—	202,000	202,000	電話受信代行契約。
④雑費	50,000	67,000	17,000	
⑤商標手続き関連	—	135,000	135,000	商標登録料。
3) 予備費	50,000	50,000	0	
4. 当期支出合計	2,907,000	4,669,000	1,762,000	1) + 2) + 3)
5. 当期収支差額	▲86,900	31,100	118,000	1. - 4.
6. 次期繰越収支差額	190,985	222,085	31,100	3. - 4.

会員数合計 550 名を想定しており、この増減により収入・経費も大きく増減するので、期初に

おいて予算の見通しを検討し、健全な運営に努める。

NPO法人「設立5年目」を迎えて

東京都在住 会員No.3（理事長） 池田 徳三郎

会員の皆様には、ご健勝で美しい春爛漫の日々をお過ごしのことと存じます。

表題につき、新年号に引き続いて、今回法人設立前後に關し若干触れます。

I. 法人の設立前

① 「南国暮らし夢の会」（前の名称）の会合が回を重ね、〈南国夢の村〉構想が持ち上がり、建設委員会が2回にわたり、マニラの北、プエルトアズール近郊に調査（H. 10.11.25～12.3、H11.1.21～H12.1.29）に行かれました。その結果は残念ながら凍結となりましたが、当時の先輩方8人が、費用を自己負担までして、南の国に夢と希望の実現を目指したことは忘れられません。



② 同時期に初めて「フィリピン居住探訪ツアー」（H11.1.25～2.7）を実施し、16名が参加した。現地の日本人居住者を訪ねての懇談、快適な豪華ホテルに感激した「大変楽しいツアー」でした。

③ 当時の会報発行は事務局（会費の徴収、会計、各記録その他）を担当された酒匂現副理事長が中心になって、その家族全員とボランティアで、編集から発送（当時130名余）までの業務を担当しておられた。

II. 法人の設立準備から設立まで

関西大震災のボランティア活動後の平成10年に「特定非営利活動推進法」施行され、12月1日から東京都の関係条例も施行した。

- 平成11年4月末に、当時の役員会で「同法による法人化を決定し、総会（5月8日）に法人化申請書の提出を諮り、承認された。同日、法人化推進小委員会（酒匂、高沢、池田）を開催、委員長に筆者が推挙され原案作成に着手。
- 5月15日、法人化推進委員会、設立者会、役員会を時差開催し、「名称、設立趣意書、定款、財産目録、2ヶ年の收支予算書、その他必要事項」の原案を提案説明し、すべて承認された。東京都に申請書を提出。
- 6月15日、「特定非営利活動法人南国暮らしの会」の申請書は正式に受理された。
- 9月30日、東京都知事より認証文書が交付された。
- 11月6日、臨時総会を開催、法人化の承認、ならびにその役員が選出され、法人登記関連諸手続き処理完了後「NPO法人南国暮らしの会」が正式に発足し、活動を開始した。

III. 法人設立後の動向

役員選出の際、理事長の選出がスムーズに運ばず、筆者が選ばれ、ビックな課題（ダン吉村構想等）を残すことになった。その事後処理は困難を極め、次期総会までの間、理事会等で多くの論議に時間を要することとなった。結果として、有能な役員が去る事態となったが、このときの「産みの苦しみ」が今日の発展につながっているともいえる。

IV. 私の目指したこと

「南の会」の発展のため、いつも、次のことを念頭においてやってきました。

- ① 楽しく夢と希望を追う仲良き会
- ② 会員のための会員参加の会
- ③ 組織的なNPOの諸活動
- ④ 経理の透明性と経営基盤の確立
- ⑤ 活発な組織的支部活動
- ⑥ 奉仕の精神に徹し、社会に役立つ
- ⑦ 前歴に触れない対等の人間関係

最後に 会員の皆様、役員の皆様のご協力とご支援により、4年8ヶ月（3期間）理事長の任を務めてこられたこと心より深謝いたします。次回総会は役員改選期ですが、「南の会」の更なる発展を期し、会の課題解決のため老骨に鞭打ち、最後まで誠心誠意努めさせていただきます。

南国暮らしの会 創設時の思い出

会員 No.101 高澤 弘晃

早いものである、南国暮らしの会が創設さてから今年で5周年との事、やはりあつという間に過ぎた感である、これまでに幾つかの思い出がある、いろいろな人が思い出を披露するだろうが私は原稿を依頼されたとき、真っ先にひらめいたことはこの会発足時の思い出である、どのようにしてこの会はできたのだろうかほとんどの人は知らない、その辺を思い出しながら書かせていただきます。

私が会に入会したのは「南国暮らしの会」ができる以前の「南国暮らし夢の会」の時代である、既に6年以上も経過しており早いものである。当時私はサラリーマンの真っ只中にお忙しい日々を過ごしていた。しかしロングステイ、あるいは移住に前から興味をもち、たまたまロングステイ財団が主催する講演会に参加したのが海外ロングステイにのめり込むきっかけであった。フィリピンのロングステイを宣伝する講演内容であったが、講師である小松崎さんのあの土派手な服装（ブルーのアロハシャツ、2月の寒い冬のときである）、70数歳とは思えないバイタリティ、そしてたくみな話術、そこに私は圧倒されとにかくフィリピンにいってみようという気になり早速翌月フィリピンに足を踏み入れた次第である。南国とは、フィリピンとは、海外ステイとは、私の目で確認してきた。更にインターネットで「南国暮らし夢の会」をしり、フィリピンに移住するということに興味をもち入会をお願いした。

電話をすると酒匂さんから「いいですよ、次回集まりがあるから来て下さい」、なんて言われほいほい足を運んだらそれは役員会の会合であった、と同時に私はその日から役員である。若い人もいなかつたので直ぐに目をつけられたのであろう、それ以来ずっと役員をやっているのだから今では私も古い部類に入ってしまった。逆を言えば当事から役員をしているのは池田理事長、酒匂副理事長、と私になってしまった。

当時は和気藹々、悪く言えば馴れ合い、酒を飲みながらの役員会もあった、時には酒の勢いで喧々諤々なんてこともしばしばであった。しかしなんとなく意気統合していた。楽しかった。会合は普通の日の夜が多かったが仕事は早々に切り上げ毎回出席である、もともと仕事よりこちらが好きになったのだから不思議である、いつも夜遅くまでの論議も楽しい思い出である。

そのよく年の役員会で、昨年暮れにNPO法人法が成立した、わが会も申請したらどうだろう、今年秋より認可されるという、我々の会も目的を持ち、又世間に我々の会の活動を認識されるためにも申請しようではないかという意見が大勢であった、良くわからないが何かいいことみたいだやってみようということで了承された、やはり「南国暮らしの夢の会」にも先が見えていた、先細りのときでもあった。移住という夢、日本人村をフィリピンに作ろうという夢が現実にならない、日本人村構想は調べれば調べるほど問題が多い、所詮夢になりそうだということを誰もが気がついていた、何とかしなければ、次のステップが必要だという気分が盛り上がっていたのも確かである。そこにNPO法人、我々の会も認可されれば社会的に認められ、さらに大きな一つの飛躍ではないかということであった。

そして新年早々から、先ずNPO法人とはなんぞやからの勉強である、誰も詳細を知っている人はいない、それはそうである国会で承認されたばかりだ、とにかく申請をしよう。そんなところから始めた面々である。

先ずはNPOとは何ぞやの勉強、幸い都庁にガイドブックがありそれを参考に開始した。大体において「南国暮らし夢の会」とは何ぞや、移住が目的なのか、ロングステイなのか、南国とはフィリピンだけなのかという問題もあった、実は前会長はフィリピン一辺倒の考え方でフィリピンに強い意欲をもち、フィリピンに日本人

村創設の提案者である、規約にも南の国とはフィリピンであることを明記し、移住を目的として、ユートピアの村を作り、そこに皆が住んで今後の暮らしを満足させることであるという主張であった。しかし前会長以外は南とは自分の心で思ったところが南の国でいいのではないか、特定の地をさすのは今後の運営においても問題である。又移住についても問題である、今後はロングステイ、或いは情報交換を中心とした会の運営をし、心の安らぎを求めるのがベストではないか、具体的にはロングステイ、移住を通して、そこに老後の健康を維持する体制、これから自分の夢を追求する体制、情報交換する体制にそこに生きがいを見つけるのがいいのでは、と最初から対立してしまった。

会の名前についてもどうするかであった、今までの「南国暮らし夢の会」ではあまりにも夢が強調され何時までも夢では情けない、更に英語の文章も考えた、「ロングステイ何とか」或いは「サウスカントリー何とか」しかし現在使っている「南国暮らしの夢の会」を踏襲し現実化する意味で夢だけを取った名前が一番いいということで「南国暮らしの会」と決定した、単純明快な言葉であるが一番良かった感じがする。

又 NPO申請には今までの活動実績が必要である、そんな実績はあるの、カリスマ会長の鶴の一聲でできた会に実績をどうするの。社会的に認められたものとは何なの、とひとつひとつのテーマに立ちはだかる、規約はどう作ればいいの、会の目的は何なの、全く不明確、しかし全て文章化しなければならない、これから約半年間で全てを完成し申請しなければならない、これしかないので、あ～あ しんどい。

最も重要である会の規約作成、やはりこれは一番大変であった、雛形を参考に我々の会としてふさわしい内容、更に今後自由に飛躍できる内容にしなければならない、そして役所に出て承認を得るために勝手な内容ではだめだ、役所には制限事項が多い、文字の大きさから書き方まで決まっている、一字一句確認して作成する、私は昼間仕事があり参加できなかつたが、

当時池田理事長、酒匂副理事長は1日中没頭である、そして夜には池田理事長宅に集まって喧々諤々論議して作成する、私は土曜、日曜にこれらの結果をワープロ化し清書する、又役員メンバーに配布し検閲を受ける、書いている途中に矛盾も出てくる、又最初に戻り議論する、これらの繰り返しを約半年間費やしやっと完成である。

役員会で承認され役所に提出、しかし又返される、再度の作り直し、あの当時の苦労は大変であったがとにかく申請が認められることが第一である、当時のメンバー全員が熱心であった、やはり情熱があった、作るんだという使命に燃えていたという気がする、やっと6月に申請が受理され一安心、そして9月末に申請が認められた、申請時における役所とのやりとりは現池田理事長、酒匂副理事長の苦労は計り知れない。

会報作成

初期の頃の会報作成は全て酒匂副理事長が一人で作成していた、当時はワープロ専用機で文章化しそれを近くの公民館に持って行き、一枚一枚、会員人数分をコピーしてそれをホッチキス留めして出来上がり、これを会員の皆さん毎に宛名シールを貼って封筒にいれて配布する作業であった。私も入会後直ぐにお手伝いをする機会に恵まれ、先ず、会員の皆さんからの原稿をお受けする、それらをワープロ化する。しかし今のように皆さんがワープロで決まったレイアウトで文章を送ってくることはありえない、全て手書の原稿である、中には文語体の草書で書いた原稿もあった、読めといっても読めない、それらを何とか解釈し、ワープロ化することであったがとにかく字が読めないのはつらかった、読めて自分で解釈し文章化したものを作成者に郵便で送り最後の検閲を受けるが全然意味が違うと怒られたこともしばしばであった。やっと文章を印刷し、製本であるがこれも大変である、全て手作業であるから、これらを酒匂宅に集めて丸一日かかるて作成した、会報作成作業は朝早くから開始し出来上がるのは何時も夕方であ

った、今考えると酒匂さんにはおんぶに抱っこであった、申し訳ない気持ちで一杯である。

情報交換会

南国暮らしの会発足と同時に幾つかの思い出がある、そのひとつが情報交換会である。当時の会は会員との情報連絡はもっぱら会報のみであった、会とのつながり、会から情報をタイムリーに得ることは不可能であった、そこでとにかく、情報を皆さんに提供する、情報を得る、そして会の交流を考えようということで定期的な情報交換を計画した、外部の経験者或いは海外滞在経験の方を講師に招いてお願いしようと提案し、皆さんもこれはいい考えだ、「それでは高澤君は若いし、是非実施して欲しい」ということで直ぐに任命され実施した次第である、この会のいいところは言いたしちゃ最後まで面倒見る、この精神である、全員参加のボランティアの会です、当然のことです、はい。

とはいっても誰を講師に、何を実施するかというが不安あった、更に会場が取れるかという問題もあった、「南国暮らし夢の会」は総会時に講演会を実施していたがそれを別途分離し定期的に実施しようということであった、最初は交換会だけで人が集まってくれるか心配であり色々考えた結論として少しムードのある会場でフランス料理でも食べながら海外体験の話を聞くという趣向で開始した、予想に反してこれは盛況で最初から30名ほどの方に集まっていたとき会場一杯で人数に限りがあり断るのに苦労したくらいであった、以後定期的に開催できていることは喜びに耐えない。

サロン会

もうひとつはサロン会である、サロン会については「南国暮らしの会」が発足した当時理事会に提案したところ、いい考ですね、是非実施しましょう、サロンに何時来ても誰かがいる、そして相談に乗っていただける先輩が何時もいる、そんな場所で会員の疑問点、情報交換、仲間作りに、みんなで話し合える団欒の場を作りましょう。なんてかっこいいことを言うと例のごとく又「じゃ 高澤君お願いします、はい」

で決着、それから会場探しである、しかし何時も借りられる、そして皆さんのが集まりやすい場所でなければならない、お金は安くなければならない、あちこち公共の場を探したが継続的に借りるのは無理であり毎回公共の場に申請するしかない、又場所についても都心でなくてはならない、やはりこれは至難のわざであった、民間の会場をと考えたがお金がない、結局挫折してしまった、夢を現実に持っていくのはなかなかむずかしい。しかしその後当時の思いとは違った形で運営され、今ではサロン会は毎月開催され成功している、これも嬉しい限りである。
インターネット

次はインターネット関連である。私は昔から機械いじりが好きで若いときからアマチュア無線（私のコールサイン J N 1 F J C）を運行していた、幸い前会長のフィリピンの自宅から声を出していただいて日本の私と交信し、つながったときは非常にうれしかった自慢の種でもあった。しかしその後はパソコン通信になり、更にインターネットである。又Eメールが普及し今では当たり前になっているが、当時は「南国暮らしの会」の普及にインターネットとeメールが必要と理事会に提案し立ち上げた、しかしこれも最初は大変である、「南国暮らしの会」ホームページは自分で作って毎週内容を更新し、何とか第三者に見ていただくために自分自身の私的な内容を「気まぐれ日誌」という題名で気を引く作戦にてて2年間ほど実施した、これもできるだけ多くの皆さんに見ていただけたためであった。しかし、インターネットのホームページはヤフー等検索ページに登録しないと誰にも見てもらえない代物である。あちこちに働きかけてやっとヤフー検索で当会のホームページが見られたときは本当にうれしかった、当時は自分で自分のアドレスをわざわざヤフーで検索してみたものである、おかげでその後の検索回数は上がり今では6万回以上の記録がある、現在全国の方から週に10名以上の入会問い合わせがあり毎週数名の方に入会いただいている。

更に会員の皆さまの援助もありがたい、特にペナン在住の木村様からの新会員紹介が多く感謝申し上げます。広報担当として雑誌、テレビ等にも宣伝し普及を心がけているが一番問い合わせの多いのはインターネットを介しての入会である。

又 サロン会の全国版、つまり好きなときに集まり、好きなときに情報交換をするようなものがないか考えていたところにメーリングリストなるものを知った、メーリングリストって何、メールの一覧表、そんなのでどうするのなんて考えていたが良く調べてみるとEメールをとおして一度にメンバー全員に配信するシステムだという、つまりメールのできる人なら何時でも何処でも最新の情報が会員間にタイムリーに配信できる、これはいい、早速作って会員相互の全国版サロンにすればいい、硬いことなし、

井戸端会議である、お互いの情報交換にしよう、ということでメールアドレスを持っている方に呼びかけ30数名を登録して開始した。しかし発足当時は私がメールを発信しても誰も答えてくれない、これは悲しかった、やむをえず、自作自演、自分で問い合わせて自分で答えたり、このメーリングリストはいいですよなんて何回も発信するが理解されない、使ってくれなければ何の価値もない、しかし会員が増えるに従つて浸透し今ではメール登録者も増えて300名以上の方に登録いただいている、毎日20通以上、メーリングリストがタイムリーな最大の生きた情報提供の場となったのは覚醒の感がある。

多少自慢話的なところもあったが5年間を振り返ると「南国暮らしの会」が大きく発展し、皆さんに愛されていることはありがたい、更に飛躍することを期待します。

「ロングフライト血栓症」とは？

長時間の運動不足で起こる病気

搭乗2週間後までは要注意！

「ロングフライト血栓症」とは？

「エコノミークラス症候群」や「旅行者血栓症」といわれてきた病気です。

近年「ロングフライト血栓症」に統一しようとの提言がなされ、現在はそれが主流になりつつあります。

原因は 長時間の運動不足（目安は6時間以上、エコノミークラスでなくても起きる）。
長時間動かないでいると、膝の裏側の静脈に血栓ができることがあります、肺まで流れる
と肺の血管を詰まらせてしまう。国内線の短時間のフライトでは起きない。

症状は

軽い場合—足がむくんだり、痛んだりする程度。

重い場合—重症になると肺の血管が詰まるため、激しい胸痛を覚え、最悪の場合死に至ることもある。

予防 とにかく、動くことである。

- ① 2~3時間に一回はトイレまで歩く、ついでに屈伸運動などする。
- ② 座ったまま、かかとを上下させる。1時間に1回、3~5分
- ③ 1時間にコップ半分の水やジュースを飲む（トイレに行くためと、乾燥した機内で脱水症状を防ぐため）

発症したら、循環器科へ

帰国後1週間以上経って症状が出ることがあるといいます。

「帰国後、2週間以内に、症状が出たら、この疾患の可能性を考えて、整形外科に行くよりも循環器科に行き、長時間飛行機に乗ったことを伝えましょう。

「南の会」に、人生の友あり

四国在住 No. 318番 小林 高明

南の会発足5周年、おめでとうございます。発足に携わった方々又日ごろ会運営のお世話をいただいている方々、大変ご苦労様です。地方在住のため、いつもお世話になるばかりで恐縮です。

さて私と南の会との出会いは、2000年3月に退職して焼き物（陶芸）の勉強を生活の中心に据えて日本の寒さを避け南国へのロングステイを模索している時、ペナンの木村さんと出会い、そして、ダン吉村竹内邸へショートステイをした事がきっかけでした。早速南の会HPから入会申込み、現在に至りました。

入会して良かったと思うことは、夫婦で行動している方が多く、前向きに人生設計をされている皆さんと知り会え、新しい世界が広がったことです。

お陰さまで全国に新しいお友達が出来、海外の南国ステイだけでなく、国内旅行も中身の濃い充実したものとなり、同じ目的を持つ方々との交流を楽しんで居ります。

四国地区の活動も、関西支部のご協力で年に数回四国ミニを開催して頂くことにより地域交流も増え、楽しさも倍増しています。

最近の一番の思い出は、バリ島で知り合った会員Aさんが四国も南国の内であるとの思いか



お二人とも きまつますねー

ら、高知仁淀川の辺りに昨年5月～9月迄（5ヶ月間）ロングステイを敢行された彼の行動力にぶつたまげた事でした。

お陰でカヌーで川下りしたり、鮎、ウナギ、川えび、モクズ蟹漁等の俄か川漁師など仁淀川周辺での川遊び、そして、男の手料理と宴会も最高でした。

又、会員の螢博士にも知己を得て、ホタル談義も弾みました。今年は女の尻ならぬ、ホタルの尻を追っかけようと思っています。

最後になりましたが、私は南の会を通じて良い友達が増え、第2の人生をエンジョイしています。本当に感謝、感謝です。

旅のスポット情報

情報提供者 No. 586 磯崎 興志

<鳥インフルエンザにご注意>

その症状は、

- ・発熱、咳き、咽頭痛・・感冒様症状を呈する

その感染源は、

- ・鶏、アヒル、七面鳥等で野鳥、家畜を問わない
- ・人から人への感染は、今のところないようです？
- ・食物での感染もないようです？

その治療薬は

- ・有効性のはっきりしたものはない

その対策は

- ・手洗い、うがい等の予防対策の励行
- ・流行地への立ち入り、鳥と接触しない
- ・鶏肉、鶏卵は加熱調理して食べる。

海外渡航への夢

東京都在住

会員N○. 479 中緒 正



私は若い頃、日本を脱出して海外で働いてみたいと言う夢を持っていた。とりわけ海外で何をしたいとという具体的なものではなく、

唯、漠然とである。狭い日本に閉じこもるよりも海外に出た方が広々とした世界があるような気がして、全く子供じみた夢であった。

そのため、地方の国家公務員でありながら、海外技術者協会に登録していたけれど、やはり中央に出ていた方がチャンスが多いのではないかというので上京し、新たにカトリック移住協会にも登録した。その結果、1959年10月、カトリック協会から連絡が入り、セイロンのダム建設における技術者要請があるので上智大学にて面接を受けるよう通知をもらった。私は英会話ができないのでカトリックの神父の通訳で面接を受けたところ、合格となり、次の段階（身体検査等）に取り掛かっていた矢先に、又連絡が入り、直接ダム工事に携わった実績が無いため今回は見送りとなった旨の知らせが入った。このため、海外渡航は一切断念し、資格のある土地家屋調査士業務に専念することに決心した。折りしも列島改造ブームのさ中であり、また、土地ブームも加わって、仕事は多忙を極めた。

N E C 日本電気府中事業場（敷地約8万坪）、サントリ一武蔵野ビル工場（3万坪）、J S W 日本製鋼所（7万8千坪）、更には、J R A 東京競馬場の古くなったスタンドの取り壊しとその新設。駅から競馬場まで直接行ける歩行者専用歩道橋の架設等々。又、競馬場の敷地は買収したときに1500筆近くあったものを、8筆に統合合併した。これら一連の仕事は、すべて私の直営工事として依頼を受け、完了したものである。

しかし、私もシニアとなり、ここで引退したいと考えております。昨年暮からは週一回程の出勤とし、事実上現業は引退の状態です。仕事を離れた今

こそ好きなことを、好きなときに、いろいろとやつてみたいと考えています。

私はゴルフはやらないから、代りに撞球をやってみたい。好きな囲碁（関西棋院五段）をもっとやりたい。ニュージーランドの原始的な自然のなかにどっぷり浸かっていたい。訪ねた先の人々と触れ合ってみたい。落ち着けるところがあれば、そこで静かに読書を楽しみたい。渡り鳥のように南の国と日本を往来したい。等々。

こんな思いがあって、二年前に南の会に入りました。経験豊かな先輩たちのご教示を受けながら、足腰達者なうちに、歩き始めたいと思っています。それも、「妻と一緒に」です。

目下のところは、好きなブナ林の探勝、俳句、詩作を楽しんでいます。

昨年、「ツイテキテクレテ、アリガトウ」と妻への感謝の意を込めて、詩集「阿沙子」を出版しました。

恥ずかしながら、その一部を紹介させていただきます。

靴	阿沙子の靴にほゞりする
	左のほゞに
	右のほゞ
	リウマチで手首のほかに
	足首まで痛くなったという
	痛がらしちゃ駄目よ
靴さん	
	左のほゞに
	右のほゞ

てんとう虫	もう茄子もお仕舞だね
	残りの葉っぱに
	てんとう虫が一匹
食べろ 食べろ	
	もうつかまえたりしないからさ
	うんと食べろ
	そして体力つけとかないと
	冬が越せないぞ

友好団体一紹介

チェンマイ・ロングステイライフの会

CLL クラブ

- ・ チェンマイ或いはその近郊に在留されている日本人及びその家族の相互親睦を図り、チェンマイに関する正しい情報を提供し、地域社会との交流とする非営利の任意団体です。
- ・ 2000年12月に設立されてから、毎月会員が増え続き、1年後の2003年11月末の会員総数は80名を超えるました。
- ・ 但し、個人的な利益を得るために本会を利用することは禁止されています。
- ・ 図書コーナーを設けており、蔵書2500冊を無料で貸し出している。
- ・ 賛助団体のレストランや居酒屋では、価格の割引があります。

＜会の運営＞

- ・ 日本人及びその家族による正会員、日本人以外の準会員、及び法人会員で構成されている。
- ・ 会に関する関する事項は、会則に則り、幹事会で決定され、最重要事項に関しては、年1回の会員総会で決定される。

＜月例会＞

- ・ 毎月、第1、第3土曜日 12時 昼食会を兼ねてチャンプアクホテル
- ・ 時に、チェンマイ領事も参加し、日本、チェンマイ等の情報提供してくれる

＜部活動＞

- | | |
|--------|--|
| ゴルフ部 | ・ 例会……………毎週、火、木 早朝6時30分 ランナゴルフ場
メンバーアルバーツ(600円)、ゲスト550バーツ |
| テニス部 | ・ ゴルフコンペ……毎月、第4木曜日 参加費100バーツ(賞品代) |
| 業務部 | ・ 初心者練習会…週1～2回、ランナゴルフ場・打ちっぱなし練習場
・ 好きな方が、随時集まって楽しんでいる。 |
| 婦人・文化部 | ・ 各種ビザ、保険、医療、住宅等情報収集、その情報提供 |
| 広報・総務部 | ・ 小旅行、食事会、各種講演会の企画、実施。
・ 婦人中心の食事会、週1回のダンス教室、月2回の料理教室等の活動。
・ 月1回の「CLLクラブ会報」の発行、対外広報活動
・ 会員名簿作成、会則、議事録の管理、ホームページの管理。他 |

＜CLLより愛をこめて＞ → 「南の会」へ情報発信活動

「CLL（チェンマイ・ロングステイライフ）の会」と「南の会」が、友好関係を確立しました。そこで、その事業の一環として、定期的にチェンマイ便り＜CLLより愛をこめて＞を発信するというものです。

発信日…………月2回、第1、第3日曜日（4月1日現在、第7号まで発信済み）

発信担当者……伊沢 豊 氏（「南の会」会員No. 558）

- * 日本では、大阪府羽曳野市在住、京都弁の語り口調で、メールを発信されておられる、お馴染みの御仁です。
- * 「チェンマイって、いったいどんなとこやねん？」と問われると「そやなあ、一言で言うと京都のようなところやろか」と答えるそうです。そんなチェンマイにロングステイできるのは、こよなく京都を愛しているからでしょうか。

E-mail……izatoyo@hotmail.com

＜ホームページ＞ 役立つ情報が満杯です。ぜひご覧ください。

<http://www011.upp.so-net.ne.jp/nakanishi-chmai/cllclub.html>

「CLLの会」が、ゼッタイに、やらないこと二つ。

その1 — 観光ガイドのような、旅行者まがいのこと

その2 — 住いや土地を斡旋する不動産まがいのこと

ワールドステイクラブ

「世界で創ろうシニアの生きがい」

をスローガンに海外旅行、・滞在旅行を通じて、精神的な充実生きがいを求める中高年の親睦団体です。世界各地の風景、文化、人々と出会い、語らい、ゆとりある海外生活を満喫するために各種の活動をしています。

ハワイ・ホノルルに<専用の宿>開設

下記施設に、格安料金で短期、長期を問わず利用できます。

ワイキキバニヤン

ディスカバリーべイ①

〃 ②

ハワイカイ

ロイヤルクヒオ

海外企画旅行

会員が自主的に企画し実施している旅行。リーダーを中心に目的地・コース・宿等などの検討を行い現地の旅行社などの協力も得て企画する旅行。

昨年、カリブ海クルーズ合同開催

「南の会」から20数名が参加

海外一日本語ボランティア

海外に1~2ヶ月滞在し、日本語や日本文化を通しての異文化交流活動。現在下記で活躍

コロラド州立大学

西オーストラリア大学

コタキナバル

海外語学研修

海外でホームステイしながらの語学研修のために学校紹介を行なっている。

現在、アメリカ、イギリス、ニュージーランド、カナダ、オーストラリア等。

諸会合

総会 毎年12月東京で開催

例会 隔月開催

地区懇 13地区別開催

同好会 趣味等による自主活動

国別勉強会 ステイ先等の自主活動

国際交流会 各国大使館、観光局との交流

会報 年4回—1月、4月、7月、10月発行

ホームページ

<http://homepage3.nifty.com/worldstayclub/>

囲碁

囲碁って、神秘的で楽しいゲームですね

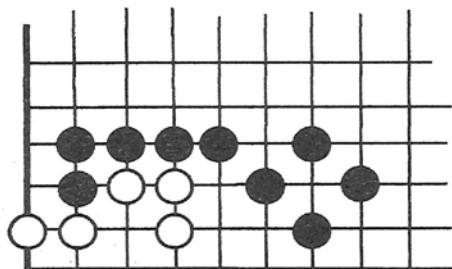
漫画「ヒカルの碁」の影響で、小学生の間でもちょっとした囲碁ブームが起っているようですね。腕に自慢の大パパは大ハッスル。盤上ではお孫さんと囲碁談義。楽しいではありませんか。

碁は、単純といえば単純なゲーム。複雑といえ複雑なゲーム。打つ人の気持ちに合せて自在に変化する神秘的なゲームです。碁は女性にも向いていると言われるのはそのためでしょうか。最近はご夫婦で始められる方も多く和気藹々。皆さん、一緒に囲碁を楽しみましょう。

さて、初めて囲碁を掲載します。暫時、碁の神秘性を楽しんでください。

詰碁問題 黒先 (10分で1級くらい)

ヒント：初手の踏み込み



(回答は 32ページ)

指導棋士 安藤公二郎(会員No.700)-アマ6段

バギオ日本人会

寄稿者 会友 山田勝也・悦子

〈バギオ日本人会の成り立ち〉

1996年5月 初代会長 池田氏他4名にて、「バギオ日本人会」発足

(池田氏は、バギオの原生苺に日本の“春の香と豊の香”を交配して、現在フィリピンで食されている苺の源を栽培し、農民の生活向上に尽力なさった方です。また、ベンゲット市にある国立農大講師を勤めながら、日本の種での作付け等の農業指導をなさっていました。病気のために、1998年10月10日、バギオを去り、現在は鹿児島県にて療養中とのことです、会の活動状況の記録が無く、当時の会員は引越しや死亡で、現在は一人も残っていません)。

親睦が目的で、2ヶ月に一度の例会では、昼食をしながらの近況報告が、唯一の活動であったようです。

1998年6月 マニラ会毎年行なっている、バギオ市近郊の小学生への奨学金授与にバギオ日本人会として6年間お世話をする、小学一年生2名の児童を加えてもらう。

9月 初代会長病気のため退会。任期途中で二代目会長にバトンタッチ。

会員 11家族18名

2002年1月 役員改選。任期満了で再選される。

5月 設立5周年

アボンのシスター「海野メモリアル・ホール」で記念パーティ開催
ビュッフェスタイルの会食後、アミダクジやカラオケで盛り上がったパーティでした。

7月 二代目会長、任期半ばにして弾劾により失脚

9月 三代目会長に、奥田氏就任

広く会を認知してもらうように登録をし、新生「バギオ日本人会」誕生となる。

- 在フィリピン大使館から情報提供を受ける。
- マニラ会とのタイアップ・・・月例会に必ず1名の役員が参加
- バギオ市に協力して、小さなことであっても、一つでも多くの貢献をし、会の存在と、足跡を残す。
- 2ヶ月に一度、例会を設ける。原則として、奇数月の第一土曜日
これまで、2家族の入会があると3家族の退会と会員の増加が無く、少人数の会であるが故になかなか行事が組めなくて、旧体制と変わらず親睦会でありましたが、上記の目標を掲げて11家族17名で再スタートをきる。
- 貴会(南国暮らしの会)の会員、斎木氏の入会で一気に活気づく

-100周年記念祭で、存在感、団結の力發揮-

マニラからバギオに至るケノン道路(別名ベンゲット道路)建設に従事した日本

人が地元に定住してから 100 周年を迎えた 2003 年 2 月 19 ~ 20 日に、日系人協会の主催で記念式典が開催されました。日本から道路建設従事者の遺族や支援者などの 200 余名に加えて高野駐ビ大使、国会議員参列のもとで慰靈祭・100 周年記念プレートの除幕式が執り行われ、NHK・TV のニュースで放映されました。また、国際エンジェル協会の協力で、日系 3, 4 世が出演して華やかな着物ショーが行なわれた。会としてこの記念すべき年にあわせてイベントを企画した。

2003 年 2 月 22 日 フラワーフェスティバルで、日本舞踊を披露

バギオ市最大のお祭り、フラワーフェスティバルでの協賛で「芸術と文化の祭典」のタイトルで、アボン（北ルソン比日友好協会の通称）に保存されていた写真に英語と日本語の説明をつけての移民 100 年史の展示がなされました。そこからのクイズ・輪投げ・ダーツなどのゲームの合間に会員の子供たちが、日系人の高校生の応援を得て、日本語のコーラスと着物を着て「さくら」の踊りを披露しました。（写真参照）

9 月 貴会の池田理事長さんの例会への参加をうけて、「南国暮らしの会」を友好団体とする提議が満場一致で採択する。

11 月 今まで寄付金を募っていたが、賛助会員を年会費、500 ペソ（1000 円）で募集する。

来年 2 月のフラワーフェスティバルは花車のパレードに参加を決定。

2004 年 1 月 例会で、花車のデザインが決まる。初めての試みで、予算の概算もできないままにスタート。

2 月 22 日 花車でのパレードに参加（写真参照）

2 月 23 日 市の要請でフラワーフェスティバル協賛として
「Philipino-JAPAN Day」を開催する。

以上が「バギオ日本人会」の歴史です。

三代目の会長になってやっと活動がはじまったばかりの拙い会ですが、昨年は

- 初のフラワーフェスティバルへの参加
- 山岳民族の祭典への参加
- 友好デー（一昨年までは、開放記念日）パレードと、日本の歌と踊りの披露
- 国際デー（市長夫人主催で、毎年 10 月の国連記念日に行なわれ、恵まれない子供への寄付を集めるディナーショー。各国の民族衣装を纏った素人モデルが出演する）に参加
- クリスマスには、バギオ市にゴミ箱 20 台を贈る。



などの実績を残しました。また、小学生への奨学金については、1998年から二人は卒業したが、引き続き新一年生二人を支援することになりました。

役員の任期は2年で1月が総会です。今年の総会で会長留任、斎木氏が事務局長に推挙されました。彼の提案と意見で、会としての体制が整いつつあります。花車の製作にあたっては物心両面の支援をいただいたうえに、「南の会」の会員との橋渡しとなり、6名様からのご支援のお陰で成功裏に終わることができました。ご協力ありがとうございました。

今後とも、13家族18名の小さな会を、どうか「南国暮らしの会」の皆さんで育ててください。バギオ日本人会としても貴会への協力は惜しみません。どんどんご意見、ご要望をお寄せください。

貴会の益々のご発展を祈念するとともに、会員皆様のご来訪をお待ちしています。

Lot 7, Block 9, Cuidad Grande Phae 2 Bakakeng Baguio City, PHIRIPPINES

TEL・FAX フィリピン (074) 446-5788 E-MAIL baguiojkjeb@aol.com

格安ゴルフ遍路 木村義光 (No. 18 ペナン支部長)

ペナンのゴルフ場で友だちになった Mr. トーマスに勧められて買った40ヶ所のゴルフ場でプレイできるチケット(200RM, 約6000円)を片手に夫婦で4泊のゴルフの旅に行ってきました。何しろ、40ゴルフ場を全部回れば、ラウンド当たり一人150円の計算になります。

今回は隠れリゾートとの評判の海辺のリゾートのゴルフ場を3ヶ所選びました。

最初はペナン大橋から車でハイウェイを1時間KL方面へ、CGKT Jeringで降り、一般道をさらに1時間走り、DAMAL LAUT GOLF & COUNTRY CLUBのなかのスイスガーデンリゾートHOTEL(300室)に2泊しました。ここは、パンコール島の対岸になります。HOTELはシービュウデラックスルームで二人朝食つき237RM(約7000円)ですが手入れの行き届いたガーデンと海に映える夕焼けと人懐っこい従業員のサービスは満点でした。

なにしろゴルフがタダに近いのですから、その分HOTEL代へまわせます。しかし、愕然としたのは部屋の冷蔵庫は役をなさず冷えません。ワイフが「これだけは絶対忘れないタイガー缶ビール1ケース」が車の中で爛がっています。仕方なく売店でペナン島の倍はする冷えた缶ビールを8本買って、高い分だけ「苦い味」を飲みました。

二日目は、一計を案じワイフがペナンから持参したビールを売店に持つていって、昨日ここで買ったけど飲み残ったからと、6本のタイガービール缶を、ニコッと笑いながら冷えたのと交換してもらいました。この手の案件には「ニコニコ」が絶対条件です。引きつった顔をしてたら成功はおぼつきません。

ワイフはその他、即席ラーメン、赤いきつね、梅干、即席おかゆ、鯖缶、イカの燻製、ピーナツと部屋に持ち込むのが苦労なほど用意に怠りありません。

ゴルフ場はマラッカ海峡を正面に、海岸沿いにあるとても美しい景色の開放感に溢れたゴルフ場と解説されたとおりでした。海を眺めながらのゴルフは正直、ワイフの「こんなハッピーな生活しててイイのかねー」の言葉どおりでした。

GREEN FEE は	Weekday Visitor 120RM	Hotel Guest 100RM
	Weekend Visitor 200Rm	Hotel Guest 150Rm

海外旅行の夜明け前

東京都在住 N O . 4 2 8 岩瀬 光子

夢のまた夢の海外旅行

私が始めて国外に飛び出したのは1956年、まだ皆さんの出生以前か、よだれ掛けの時代、またはヤンチャ坊主かオテンバ娘の頃。そして日本は朝鮮戦争のお蔭（？）で神武景気の風が吹き始め、街には神風タクシーが走り廻っていた頃でした。でも、日本の国はまだまだ貧しくて、日本のお金で外貨を買い、それを外国で使うという贅沢は許されなかった時代です。当然海外旅行などは夢のまた夢！ 仮に法律違反の高価なヤミドルを手にいれても、海外旅行はできないシステムになっていました。何しろ日本を出る時は、貴重な日本の財産を減らしてはいけない「無銭旅行」なのですから・・・。申請者は第一条件として、必要経費はもとより、本人のすべてに責任をとることの出来る、信用ある受入れ先を持たなければなりません。申請者は、大蔵省で毎週木曜日に開かれる“オールギャランティーカンパニー会議”で審議され、それが無事に通れば、次は渡航先の駐日領事（私の場合は香港領事）に個人面接します。それで最終決定となります。50年前の日本はそんな時代だったのです。なにしろ、1ドル360円で私の月給は23,000円でしたから、経費を立て替えて下さったマネージャーへの返済金は、円に換算すると大金でした。それでお坊さんになったつもりで、月給とボーナスの半分を返済にあて、ひたすら“清貧の生活”を楽しみ？続け、予定よりも早く完済することができました。人間その気になれば・・・ということでしょうか。私はある航空会社にいた関係上、幸運にも“出張”的な名目で香港支社が受け入れ先となり、スムーズにパスすることができました。当時はまだジェット機のない頃で、（空港も羽田空港だけ）私の乗った飛行機は、“ダグラスDC4”という機種でエンジンが4個ついたプロペラ機でした。当時アメリカ領だった沖縄と、軍閥、蒋介石の治める台湾経由で、目指す香港に無事到着したのは11時間後でした。

落ち着いた風格ある街、ホンコン

その街はまだ阿片戦争から百年しかたっていなかった為か、イギリス植民地の跡がまだハッキリ残っており、復興途上の日本からやって来た私には、香港は静かで重厚な雰囲気をもった街、というのが第一印象でした。でも周囲の山々の中腹には、中国本土からの難民の粗末な小屋がひしめいており、貧富の極端な差に複雑な思いを抱きましたが、その風景は現在の賑やかな香港からは想像もつかない事でしょう。香港支社の営業部にいたカニーは当時、“ミス・エアライン・イン・ホンコン”でマスコミを賑わせた女性でした。彼女と私と



1955年当時のホンコンの街

は外見はひどく違いますけど、何故か一目ですっかり仲良しとなり、50年たった今でも“刎頸の友”の関係にあり、今年の秋には我が家に一ヶ月泊りに来ます。カニーはその後バンクーバーの豪邸に移り住んでから、もう40年たちました。彼女は折にふれ、私にカナダでの異文化コミュニケーションについての知識をいろいろ教えてくれました。例えば、「トイレに入る前、トイレの戸が開いていたら、用を終えた後、戸は元のよう開けたままにしておくことね。何故なら、閉ったままの状態は、誰かが中に入っているということなのよ。」とか、「食卓に着いたら、手を髪に触れないことね。何故かというと、髪の毛やフケは軽くて飛び散りやすいしょ。これって隣席の人に対してのマナーなのよね。」とか・・・etc。

気軽に話しかけるオーストラリア人

この頃よく「日本の常識は外国では非常識」と言われるようになりました。ヤット気が付いてくれて良かった、と思います。外国では視線があうと微笑んだり、“ハロー”とか、“ハイ”などと気軽に声をかけてくれますよね。そんな時、慌てて視線をそらしたりして、相手に失礼した事があったかもしれません。でも今はマナーを守っていますが・・・。

この話は2000年正月前後の三ヶ月間、メルボルン郊外で姉と二人で滞在した時の話です。日本を出発する前、オーストラリアは紫外線が強いから武装しなくては、と覚悟していたのに現地に来たら、真夏というのに誰も帽子をかぶらず、パラソルは誰一人さしていない！でも私達は「他人は他人、我は我で行きましょうよ。」と日傘をさして近所の公園でかけたところ、途中で前から来た中年女性に声をかけられました。「失礼ですがあなた方は中国人ですか？」と。「いいえ、日本人です。」と私。すると「傘をさすのは中国人だけかと思っていましたけど、日本人も同じなのですね～エ。」などと何故か目を丸くしながら、「サンキュー」と言い、去って行きました。特に取り上げるほどの会話でもないのに、いえ、それだからでしょうか、姉は「オーストラリアの人は好奇心があって人懐っこいのね。」と妙に感心していました。日本では「沈黙は金」「雄弁は銀」、「腹芸」、等の言葉がありますが、皆様ご存知の如くこれ等は外国では全然通用しないのですね。

スリランカ通いがはじまった！

30年間で二つの航空会社で働き、55歳で早期退社したところ、ある友人の奨めで、今までとは別世界のアメリカの新聞社でパートで働くことになりました。パートなら長期休暇がとれるという利点があったからです。それに海外志向の自分は、“カニーのいるバンクーバーで老後を過したい”との希望があり、フラットを見て廻ったりしましたが、加齢と共に、冬は寒いから南の方がよさそう・・・と、考えが変りました。

‘79年のある日、友人が言うことには、「スリランカは、人情あつく、親日的で物価も安く、年中暖かくて治安もよい。色々な新鮮な果物もドッサリで、探検の価値ありますよ・・」と。私は何の知識も期待もないまま出掛けたところ、今まで見たこともない異文化の世界に魅せられ、断然！！好きになりました。それからは短くて2週間、長くて3ヶ月、の滞在で20年間で

15回通い続けました。（空白の5年間は母の介護でお休み。）スリランカといつても平地にあるコロンボは暑くて賑やかな都市ですが、キャンディ市は標高600米の高原にある古都で、四季を通して“軽井沢の夏”と同じです。ここは私の”パラダイス”でした。

小さくて綺麗な毒蛇

ここ、KANDY市にある私の常宿の前庭には、いつも満開の草花が咲き誇っていました。ある朝の事です。その花壇にちょっと茎の太めのコスモスが2本並んでいて、その2本の茎の中間に、横に一本の蔓が張っていたので、“おや、ここだけに蔓があるのは珍しい・・・”と手を触れそうになったとき、2本の茎が少し揺れたのです。よく見れば、その細い蔓は緑色の小さい蛇でした。私は驚き、すぐ庭師をよびました。彼はその蛇を見た途端、“これは猛毒のある蛇で、人の眼を襲う！”と教えてくれました。そして、直ぐ竹箒を持ち出して、力一杯その蛇を叩きおとして殺した。私は間一髪で失明を免れました。

スリランカの身近な野生どうぶつ達

私の常宿は少し高い崖の上に建っています。崖の前の道路は人や車、象や猿なども通り、眺めていて大変面白く退屈しません。道路脇には高さ1メートルぐらいの、ゴミとなった食べ物の山が所々にあります。この街のゴミの掃除屋さんは鳥やイグアナなどの野生動物です。ですからポリ袋などは要りません。私が近くでみた体長150cmほどのイグアナは四脚ひろげてゴミの小山に昇り、野菜くずやカレーをパックン、パックン食べていました。身体が大きいのでチョット怖かったですが土地の人は、「こちらから大声立てたり、刺激を与えていたりしなければ襲わないよ」と教えてくれました。あの巨体を維持するだけの物が、ゴミの中にあるのですね、キット。それから一本600万円もするといわれる立派な2本の歯をつけた巨象が、時々3名のお供を従えてズッシンズッシン散歩？していたり、毎朝、5頭家族？の牛達が、崖の草をムシャムシャ食べながら、何処かに出かけ、午後3時ごろ同じ5頭家族が家路を急ぎ？帰ってゆきます。牛飼いもついていないのに…。

ある日の朝10時頃、突然40匹程の猿のファミリーが大挙して道路を横断した時の事です。最後の一匹が横断中、猛スピードで走ってきた車に轢かれ、猿は悲鳴と共に丸くなって転がり、道路脇の溝の手前で止った。と、その時、一匹の猿が振り返り急いで傷ついた猿の傍に寄り添い、そのまま3時間程坐り続けていました。それにしても、群から離れてジィ～ッと傍にいたあの猿は、親子だったのか、夫婦だったのか…。その硬くなった遺体は、庭の片隅に丁寧に埋葬されました。南の国で土地の人々と生活すると、日本で見失ったものが見えてくるのは不思議です。



スティ先きの家族と



姉と二人で（バンコック）

ダバオ変人便り

～ 優しさに感動し、優しさが社会を動かす ～

(ダバオ在住)

会員NO. 341 平野 雅一

E-mail : masamH3@aol.com

* 日本人移民100周年を迎える *

2003年8月末、フィリピン第2の都市ダバオでは日本人移民100周年祭が盛大に開催された。私の所属しているNGO団体は20年前より戦後悲惨な状況におかれていた日系人を支援してきた経緯もあり、私はこの大イベントに積極的に関わった。

100周年記念式典（参加者300名以上）、

100周年記念パーティーの（参加者300名以上）、日比歴史資料館のリニューアルオープ

ン式典（参加者200名以上）、日比合作オペラ公演（参加者1200以上）パレード（参加者350名以上）、沖縄など日本からの参加者の受け入れ（約160名）、フィリピン観光省主催イベントへの協力参加、日本祭りなどを、1週間という短い期間で実施した。盛り沢山と言えばいいのか？何といえばいいのか？「あんなに大きな感動を体験できて本当に良かった。」という気持ちと、あまりに大変だったので「もう2度とあんな大変なことはやりたくない」という2つの気持ちが今でも入り混じっている。

* ダバオ社会からも日本からも取り残された日系人 *

ここで、若干日系人のことに触れておかねばならない。

戦前、アバカ栽培を中心に地元の人たちと共に存・繁栄してた日本人移民の生活は戦争という歴史の悪戯で全てが崩壊した。日本へ帰国できた移民は結果として日本の高度成長に便乗することができて、ある意味幸せな結果につながった。一方、ダバオに残された人々は想像を絶する悲惨な体験を強いられた。日本人の血が混じっていることがばれると家を焼かれたり、暴行後殺害され見せしめのためその死体を木から吊るされた者は数知れない。

私は当時を経験している日系2世の人たちの話を聞く度に、その悲惨さに胸が締め付けられてきた。私は似たような話を日系人から何度も聞いてきたが、今でも当時の話を聞くたびに涙を堪えるのに苦労する。日系3世の日系人会会長は少年時代をこう振り返っている。彼は戦争を知らない世代である。

「私は、とにかく学校に行きたくなかった。行くと他の生徒が私に“あいのこ”と罵倒し、石を投げつけてくる。毎日その繰り返しだった。もっと悔しかったのはその行為を見ている先生が何も注意してくれない。」

こんな話を聞くと胸が詰まる。

一方、日本政府から彼らへの認知や支援は全く無いに等しい。唯一、ある一定条件を満たしている者（証明できれば）には日本国籍を与えるということだけである。戦後、日本人だとばれれば殺される状況の中で日本人だとわかる書類や物品など残すはずも無く、どうやって証明しろというのか？日本からも見放されている。



ダバオ市内を神輿がねり歩く

ダバオに住む多くの日系人達はフィリピン社会の狭間で“あいのこ”として耐え忍んで懸命に生き延びてきたのである。

この気持ちがわかりますか？ 現在、ダバオ及びその周辺に約9000人の日系人が生活をしていると聞く。

* つらい経験をした者だけが持つ、人への優しさの深さ。*

今回の移民100周年行事実施に向けての打ち合わせが始まって数日後、ダバオ日系人会会長から相談を受けた。会長は36歳で、会長職としては若いが人望があり、大変好感のもてるハンサムである。

彼が話をきりだした。「カダヤワン祭りのパレードに日系人会も参加したいのですが一緒に参加してもらえますか？」その言葉を聞いた私は“何言っているんだ？ 現状のプログラムだけで十分じゃないか！ 更にパレードに参加したい？ だいたい金はどうするのだ！” 予算の問題や各式典などの多くのプログラムをどのようにこなしていくかを考えるだけでも大変な時期であったので、私は正直そう思った。

私は彼に聞いた。「金は大丈夫なのか？」 彼の答えは「なんとかなると思いますよ」 日系人とはいえ、なんとフィリピン人らしい考え方なのか…。話はそこで打ち切りとなった。

帰宅した私は、100周年記念行事のプログラムの多さや予算のやり繩りが大変なのは会長が一番分かっているのに何故あんな事を相談してきたのか、気になっていた。

数日が過ぎたある日、会長が私の事務所に飛んできた。その興奮した態度を見て“とんでもないことが起きた”とすぐに解った。そして、会長は震えた声で私に言った。

「もし、私達のグループがパレードに参加すれば参加50組中の先頭を歩くことになります。」 私は状況がよく理解できなかつた。このパレードはダバオ2大祭りの内の1つであるカダヤワン祭のプログラムである。私はその大パレードで“あいのこ”と屈辱されてきた日系人達のグループが先頭を歩くことができるのか？ もし、そうであればこんなに嬉しいことはないが…。会長の興奮はまだ止まない。「カダヤワン祭のパレードで先頭を歩けるんです！」

返す言葉を失っている私を見て、会長は興奮を少し抑える声で言った。

「今、ダバオ市にパレードの事で相談に行ってきたのです。そうしたら、日本人移民100周年は記念すべき出来事である、ということを認めてくれたのです。しかも、もし参加するならば特別メニューとして先頭で参加させてくれると言ってくれたんです。」

今度は状況を理解できた私が興奮した。「本当か？」

会長は満面の笑顔で答えた。「はい！ 本当です！」 その瞬間、私は会長の手を握り締めていた。

“あいのこ”と屈辱されていた日系人がよやくダバオで認められた！ やっとフィリピン人の仲間入りができた！ そう思うと爽快な気分になった。

冷静に戻った会長は話を続けた。「日系人として堂々と市内を歩きたいと皆思っているのです。是非参加しましょう。」 その目は真剣だった。

「100年は節目の年です。私たち世代にとっても最初で最後の大きな記念なのです。まして、高齢の日系2世にとって一生の喜びになるのです」

その言葉を聞いた時、はっきりと理解できた。日系2世の人たちの思いでつくりをしてあげたかったのである。親の世代である日系2世の為に真剣にパレードへの参加を実現させようとしている会長の姿勢に私は感動した。自分がつらい経験をしてきたからこそできる人への優しさ。彼の優しさがフィリピン第2の都市ダバオを動かしたのである。私はその優しさに感動した。そして、私の心が大きく動いた瞬間だった。

* 総勢350人参加のパレード *

100周年記念行事の打ち合わせが進んだ。その実行委員会（メンバーは全て日系人）の席上、皆からパレードの内容について提案があった。「神輿を日本人とフィリピン人と日系人の皆でかつぐことができないでしょうか？」

私は常々、日本人、日系人、フィリピン人という枠組みは必要なのか？何で区別するのだろうか？同じダバオに住んでいる仲間ではないか、という思いがありましたので、すぐに賛成しました。そして、その私の気持ちよりも、日本フィリピン両方から“あいのこ”と見放された過去を持つ日系人から出てきた提案であったことに感動しました。

私と日系人会会長は皆の想いを背負って、日本人会会長はじめ役員（当時私は未だ役員ではなかった）の待つ場所へ説明依頼に向かいました。開口一番「日本領事館は参加するのか？」と聞かれました。日本人会はいつも領事館と共にパレードに参加していたのです。しかし、日系人会は数日前に既に領事館の理解を得られず参加を断られていきました。そのことを伝えた上で、我々のこのパレードにかける思いを必死で伝えた。日本人会会長の答えは「一緒にやりましょう」だった。「協力しましょう」ではなく「一緒にやりましょう」だった。嬉しかった。話し合いの結果、日本人会は高齢者が多いということで、神輿の周りを歩くこと、及び神輿の担ぎ方の指導に日本人会副会長自ら参加することになった。こうして、将来を担う若者であるミンダナオ国際大学の生徒が神輿を担ぎ、その周りを日系人と日本人会が囲む形が出来上がった。日本領事館は不参加だが、これで我々のパレードの先頭が固まった。その他、沖縄ダバオ会（戦後ダバオから沖縄に生還した方々）・フィリピン日系人連合会、日比企業協議会、マニラ商工会議所、マニラ日本人会等の賛同を得て総勢350名の参加となりました。

* 「死ぬまで、こんな晴れ舞台に立てるとは思っていなかつた」 *

パレード当日。パレードのスタート地点はハッピとねじりハチマキ姿や浴衣姿の参加者で溢れ、まるで日本にいるような錯覚に陥った。フィリピンの若者の打つ和太鼓の音が大きく響き渡る。私の胸の鼓動も高鳴る。これから、日系人とフィリピン人と日本人が心をひとつにして準備してきた夢物語りが現実のものとして展開される。まるで最終回のドラマが始まるのを待っているような気持ちだった。日系人としてその場に立てた喜びに感極まって泣いている老人もいた。その老人の感情をフィリピン人の笑顔がやさしく包み込んでいた。

過去を負の遺産を振り払うが如く大きな掛け声で神輿が担がれ、私達のパレードが始まった。神輿を担ぐ日系人とフィリピン人の若者の声がダバオの街に響き渡る。

その周りを日系人・日本人・フィリピン人が囲み大団扇で扇いでいる。

“あいのこ”として辛い過去を持つ日系人が日系人として堂々と歩いている。彼らの心境を思うと自然に涙が溢れてきた。

また、フィリピンネイティブの服装や日本の服装をして皆で手をつなぎ“日本とフィリピンの明日の為に”というテーマを掲げて歩いているグループもある。

日系人とフィリピン人と日本人が一緒になって日本とフィリピンのよりよい明日を訴えながら歩いている。

日系人会会長の、人を想う優しさが人の心に響き、人を動かした。それが証明されたのです。神様は本当にいるのではないかと思った。

パレードに参加した日系2世の老女が目を真っ赤に腫らして言った言葉は一生忘れない。

「死ぬまで、こんな晴れ舞台に立てるなんて思っていなかつた。」

～終～

追伸 ダバオ変人便り

会員の皆様こんにちは。私はダバオに来てもうすぐ3年が過ぎようとしています。ダバオに来た当初は夢を実現するんだという思い込みだけで、自信など全く無かったというのが本音です。でも、今では“何とかなるものなんだ”というのが実感です。振り返ってみると、なんとかなってきた一番の要因は“郷に入れば郷に従え”を肝に銘じて実践してきた点にあるのではないかと感じています。

家族（家内・娘2人・愛犬）はダバオに来てから約1年になります。家内は近所のおばさま達と買い物に行ったりおしゃべりの毎日。子供達は勉強と近所の子供達と遊ぶ毎日、最近では空手を習い始めました。日本から連れてきた愛犬（キャバリア）は毛が長いため、当初はダバオの暑さにぐったりしていましたが、今では外を走り回っています。ダバオでは大変珍しい犬種とのことで近所の子供達の人気者です。

家族にとって生活する上で解らない事が殆どなくなったようで、生活にリズムができ、落ち着いた毎日を過ごしています。このような生活を手にすることことができたのは周りで協力してくれるフィリピンの人達のお陰です。本当に皆さん優しくしてくれます。そんなダバオの人たちに感謝するとともに、NGO活動を通じて、今までに以上ダバオに貢献していきたいと思っております。

優しさと感動の街「ダバオ」を体験してみてはいかがでしょうか。ダバオへお越しの際は、是非お立ち寄り下さい。では、皆様お元気で。



宮崎理事が来訪なさった時に家族と記念撮影

メーリングリスト(2004年3月7日付け)—60歳のゴールドコースト英語留学生

— 帰ります、妻のところへ — 木内 登希晴 (No. 417)

定年後、海外でロングステイを始める前にまず英語をおぼえたいということで、オーストラリアのパース、シドニー、ゴールドコースト、そしてメルボルンと各3ヶ月、語学の勉強をしようと計画をたて、去年の7月に日本を出発しました。

それから時の経つのは早いもので、もう既に、パースではモウリーン宅に3ヶ月、シドニーのマンリーではフローラ宅に24日間、カルメン&マリウス宅では2ヶ月、ゴールドコーストのアーナ&ラッセル宅には1ヶ月滞在し、合計7ヶ月、いずれもオーストラリア人のおたくにホームステイしながら英語学校に通いました。

そして7ヶ月のホームステイを終えて、他人を気にしない自分一人の生活を今始めています。

しかしながら、正直言って、やはり妻がない独り身の生活では、いくら食材に恵まれていても、調理道具もないし、料理方法も知らないで、豊な食生活というには、あまりにもかけ離れた生活を送っているこの頃です。そろそろ、「日本に帰る潮時がきているのかもしれない」と思うこの頃です。

パース、シドニー、ゴールドコーストで各3ヶ月実際に過ごしてみると、独り身の修行僧のような生活にはやはり限界があり、残りのメルボルンの3ヶ月を「何も、今、計画通り続けなくとも、これから海外でロングステイするとき、その地で必要なら、また英語学校に通えばよいではないか」と思えるようになってきました。という訳で、ここで、英語修得の旅を終わりにし、4月10日に日本に帰ります。

何も勉強は英語だけではなく、人生勉強も含めて、これからも様々な形で出来るのですから。。。。。

日本に帰ったら、また、連絡させていただきます。

まずは近況報告まで。

ビギナーのセブ島ステイ

川崎市在住

会員 No. 670

今野 力男

ゆめ実現への第一歩

昨年4月定年退職後、長年の夢である「南の国」滞在に向け、暖、近、安（物価、安全）の条件を満たすと思われる比国の島々（セブ本島、マクタン島、ミンダナオ島、ネグロス島）を12月（8日～21日迄）に当会会員諸氏にお世話になりながら候補地を捜して歩き、結局、以前から趣味のダイビング（20数年前から年1～2回、パッケージツアー）で訪れていたマクタン島に近いセブ市を選択、宿舎等を決めて帰国。待ちに待ったセブでのミニステイ（16年1月30日～2月27日）を目指し成田発P R直行便でセブ島へ。知人が空港に迎に来ており宿に送って頂き、ステイへのオリエンテーションを受けて就眠（明日からの生活に思いをはせて）する。宿はセブCC（ゴルフ場）を横にみて町屋マート（日本食材）に向かう大通りを直進、単科大学横のサントニノ ビレッジ。（タクシーでこの名前告げると100%OK、警備員常時3～5名、教会もある、1周徒歩約30分）ここは12月旅行時、某旅行社の現地責任者に紹介された喫茶店でオナーと知合い（日本人、音楽デレクター）彼が日本に帰国し空期間を格安で借りる（朝食付き）。ホームステイの感じで警備の若者、食事係の女性と大型犬2匹、週数回通いのメイド2名、店の女性マネージャーが時々泊まるが、2階（4ベットルーム）は私だけの空間、1階はキッチン2ヶ所、ダイニング、住込みの人達の部屋2ヶ所、庭にジャグジーとプール、エアコン付きと申し分の無い所でした。

日常の生活&気候 （お金のペソをpで標記）気候は特に暑くも無く、涼しく感ずる日もあり凌ぎ易く快適な避寒地でした。（セブでは最高の季節との事、日中でも25～32℃程度）通常は朝7時起床、8時半朝食、午前中は読書、英会話（聞くのみ）、TV、プール等で過し、午後はタクシーで（約10分、p50程度）喫茶店へ。そこで昼食（飲物付p175→きし麺

餡飴、お好み焼等も有る）或いは知人や店の人達と市中へランチにp200～300、1～2時間後に喫茶店に帰り、お客様と談話やTV、読書、SM（大型スーパー）やネットカフェに出掛けたりしていると夕方に成ってしまいます。

憩いの場所

今回、欠かす事の出来ない憩いの場となったのが『樂園』お風呂屋で、日本の健康ランド風で混浴、女性三助、サウナも、併設の居酒屋、全身&フットマッサージあり。汗を流してからディナーに繰出で、帰りに立寄るかのパターンでした。一人の時は入浴後、居酒屋で飲食し其のまま帰宅（宿に近い）8時頃から寝てしまう。「風呂入浴料p100（タオル、バスタオル、パンツのセット付き）、フットマッサージ30分p100、チップ（三助も）p50～100程度」

現地在住の方々との交流

もう1ヶ所、日常のベースの喫茶店『ハッチ バッヂ』、ここに来る人々との触合いで退屈も寂しい思いもせず、安全に楽しく暮せました。

例えば常連客のタクシー会社オーナーのT氏は店が事務所と間違う程。彼にはお風呂、ランチ、ディナー、夜間ツアー（カラオケ、クラブ、ショットバー他）等は勿論、下町の衣料品店での社名入りユニホームの発注交渉や車のエンジン購入（素人目には動くのかなと思われる代物）や従業員の誕生パーティー、自宅でのスキヤキパーティー等と普段味わえないような事を体験させて頂く。またある時はダナオ市（セブ市内から約30km）に新リゾートH（日本人経営）オープン情報ありランチに行くが予約せず食べられずダナオのマーケットでリッチ?な（5人で総額p163）ランチとなる。ここは果物、野菜、魚もセブ市内の半値に近いとの事。

H氏は来客中最年長77歳（2月が誕生日、店で盛大にパーティーを行う）自ら車を運転し（市内の運転は勇気がいる）毎日のように来店する

元気な先輩です。以前、店を経営も奥様（比人）と争議中で店は召上げられる見込み。（現地人との裁判は勝てないのが通例との事）、詐欺まがいに遭うとか、融通のお金も焦付く等の経験豊富な方、今は他の日本人に自分の失敗談をボランティア（？）でしている。ある時、彼のボランティアに同行して拝聴の機会を得、セブの人間模様をショッピリ垣間見る。上手い話（特に同朋）に乗らない、仕事しない事がこの国では（どの国も共通か）楽しく暮す智恵のようです。

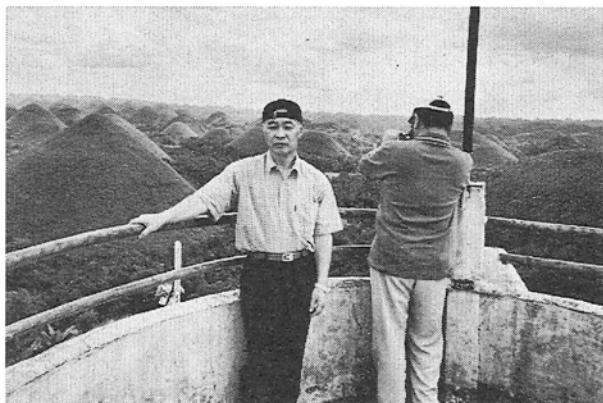
仕事するには英文契約書内容を理解し対応出来る事、信頼における現地協力者（大抵この人選が原因で失敗→比人伴侶や弁護士も含め→偏見？）がいる事が最低条件のようです。

情報通のU氏（セブ情報PH主催）現地女性と結婚13年目の方、教育ママのTさん（小学5年男子→語学習得に）、サイパンでレストラン経営していたS氏（野菜栽培に熱中）、マクタン某ダイビングショップ社長のN氏、婚約者のNさん、そして当会の会員&会友の皆様、喫茶店の美人トリオ等、9割方日本語で意思疎通可能な人々の輪の中（過保護）でのステイでした。

ボホール島トリップ

2月18日ボホール日帰り旅行・朝6時30分宿出発、途中鶴岡氏と合流し（ガイド+客5名）セブ港（8時）発の高速船スーパーキャットに乗船、約90分でボホール島タクビラン港に到着、現地（英語）ガイドに迎えられ車で（定期観光バス等は無さそう）隣のパングラオ島（車で橋を渡る）、私の知るフィリピンの島々でトップクラスの綺麗な浜辺のアローナビーチ（私見、ボラカイ以上）を散策、ランチは川に浮ぶ船上レストラン（楽団付き日本の歌を数曲流れる）食後その船で涼みながら川を遡上し落差の少ない滝を見にゆく。下船直後、この旅で一番感動したのは、掌に乗る程の小さな『サル』らしき小動物が木の枝に掴まっている姿を見た瞬間でした。（猿ではないとの事）川の上流の森に生息し夜行性で餌の昆虫等を捕る時は相当長い距離を飛ぶ（跳ぶかな？）、保護指定動物でコアラを茶黄色にして小さくしたイメージ。その後、観

光の目玉チョコレートヒルズへ、展望台への階段240段（己の体力を知る）を登り切るとそこは名前にピッタリの光景が広がる。



チョコレートヒル展望台にて

余りにも広範囲（360度）に同型の山が多数点在、不思議だなー、これがそうか！程度（感受性の問題）の感想。帰り道バンブー（竹）の民家（昔の建築方法）、由緒有る教会（400年以上前建築）鍾乳洞等を見て午後6時発の高速船でセブ帰島、費用p3、200。観光パンフレでp2、600の案内もあり。（内容は？）

ダイビング他

マクタン島周辺で2日間（1日は会員の鶴岡氏と）潜る。このエリアで約100本経験あり余り期待していなかったのですが、今回N社長と潜り今まで見た事の無い魚、エビ類等が生息しているのにはビックリ、海の奥深さ（陸上も同様）を教えられました。

次回も、新たな気持ちでこの海にトライしたい。その他は南の会役員来島時に滞在の会員&会友諸氏との食事会、知人の歓送迎会等を通じ種々のレストラン（ピン&キリの店で）での食事を堪能する事が出来ました。

いよいよ帰国、前夜の送別会の余韻を胸に約1ヶ月のセブ暮らしも終了、セブ発直行便で帰国する。今回、単独のステイでしたが次回は夫婦でと考えております。

参考：全費用約15万円（航空券5万8千円30日有効込み、生活費、観光、ダイビング、その他費用）

□ インターネットカフェ→アヤラショッピングセンター2F日本語可PC6台1分p1

サイパン・ロタ島テレビ取材協力

川崎市在住

会員 No. 363

赤嶺 良彦

<南国暮らしの会>を通して、テレビ東京より「海外移住」に関する番組の取材に協力するよう依頼がありました。その依頼に応じ、3月6日から10日までサイパン島とロタ島での取材に協力するために家内と伴に出かけました。当地では朝から晩まで撮影が行われるか、撮影がない時はスタンドバイの状態にあり、残念ながら観光する時間はまったくありませんでした。

(往年の大スター石原裕次郎・北原美枝夫婦が過酷なロケをボイコットして海外に逃避したことについてなんとなく分かるような気がしました)しかし取材した多くの日本人の方々から貴重な話を伺うことができ、将来海外移住する際の参考になりました。

1. 島の概況

両島は北マリアナ諸島連邦に属するアメリカ合衆国自治領で、1944年に日本の委任統治国になったこともあります。このため現地の住民は英語と日本語が話せます。

2. 島全体の印象

“母なる自然は、人々を無条件に生かしてくれる”という気がします。視界いっぱいに広がった群青色の海と、手つかずの豊富な自然環境が満喫できます。治安も良くのんびりとした雰囲気なので、ストレスから開放されること受けあいです。少年時代にすごした沖縄の緑深い自然に良く似ており、移住に適していると確信しています。

3. 取材日程

1日目

1) バンザイ絶壁

米軍に追いつめられ、逃げ場のない絶壁から“天皇陛下バンザイ”と叫んで身投げした光景を想像し、平和のありがたさをしみじみと感じました。この絶壁は、現在自殺名所とな



記念のツーショット

っているらしく地元民に貢献(?)しています。現に、夫婦げんかが原因で飛び降り自殺しようとして宙吊りになった妻を、夫と救急隊の警官二人が救出している現場に居合わせました。(悩みを抱えた自殺願望の日本人でも、この自殺名所では必ず目的を達せられると思います)

元日本軍司令部

元日本軍司令部はかなり広く、戦争がなければ優雅な生活ができたのにと悔やまれます。遺族がわざわざ日本から持ってきたお供え品に胸を打たれました。司令部の前にあるメモリアルパークには、太平洋戦争中に使用された兵器が多く展示され、戦争の浅ましさを訴えているかのようです。

2日目

サイパン病院

院長の説明によると、サイパンにおける65歳以上の高齢者は、全人口のたった5%で約3,000名、(日本の場合は、19%で2,431万人)肥満で早死にする人々が多く、高齢者の介護問題は発生していないとのことです。

岡田夫婦

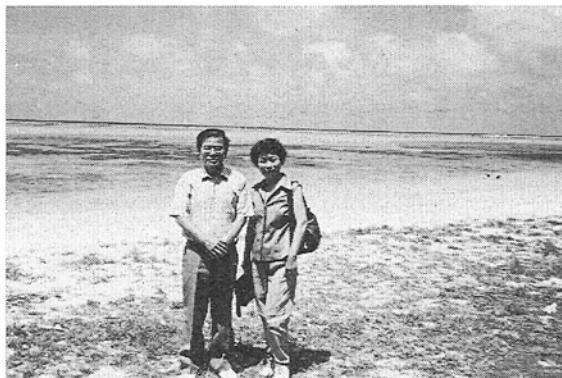
心臓病を患らい、医者から余命いくばくもないと宣告された岡田さんは、病気を克服するため5年前にサイパンに移住。当地のすばらしい自然と清らかな空気に生かされて健康を回復しています。

川島夫婦

太平洋とフィリッピン海が見渡せる豪邸に居住。太陽の位置が変わるにつれて、海の色が1時間毎とに変わるとの説明がありました。

大川さん

日本を完全に脱出し、サイパンの日本料理店で賄い方として働いている大川さんは、どの国に住んでも墓はいらない、“はかない”人生と“賄いの付かない”（メードを雇わない）人生が望ましいとの人生観を自信満々に披瀝しました。



なんとも、すばらしかった群青色の海

3日目

山本夫婦

我々撮影隊は、小1時間かけて大きなうねりの山を乗り越えながらボートを沖合いへ進みました。波しぶきが目に入り痛くて、目を開けていられないほどでしたが、山本夫婦は、1mをゆうに超す大魚を2匹いとも簡単に釣り上げました。この魚をサカナに、青々とした海が広がっている同夫婦宅ガーデンで濃く染まった夕日を眺めながらバービキューディナーを楽しみました。

4. 注意事項

すばらしことがいっぱいありますが、注意すべきこともあります。

日差が強い。

南国の強い日差を避けるためには、サングラスや遮光メガネを着用すべきです。テレビ局のカメラマンが直射日光にさらされながら撮影を続けたために身体不調で食欲不振に苦しました。立ち小便をすると罰金が課されます。

(罰金がいくらになるか聞きそびれました)

道路脇であやゆく立ショーンしようとして、現地のコーディネーターに注意され、遠くにあるトイレに車で誘導されました。

だまされないこと

取材した日本人のうち大金を現地の住民にだまし取られた方がいます。

5. ビザ制度

①日本からかなり近く飛行機で3時間しかかかりませんので気軽に行けます。ビザなしで最高一ヶ月間滞在できますが、来年には三ヶ月間滞在できるようにビザ制度が改正される可能性があります。

②1999年2月に、55歳以上の外国人に対して、15万アメリカドルの現地投資(コンドミニアムの購入)を条件に5年間の居住ビザ(更新可能)を発給する制度がスタート。

5日間の撮影をどうにか終えてサイパンから日本に帰り成田空港に降り立った時、最初に感じたことは、「空気がおいしくない」ということです。サイパンのおいしい空気のおかげで、岡田さんがお元気に過ごされていることに納得した次第。

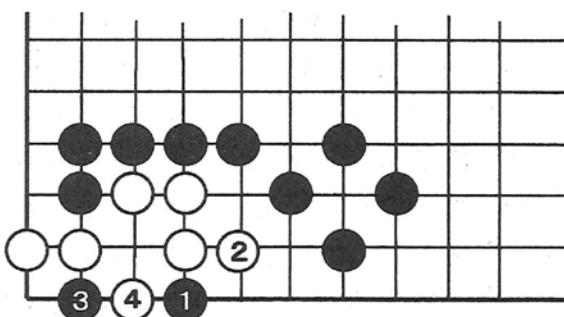
囲碁教室—詰碁回答

黒先コウ 黒1まで踏込み

白2に、黒3とツケてコウです。

黒1で4は、白3 黒1 白2で生き。

初の詰碁はコウで引き分けましょう



Cambodia Tour Report

東京都在住 会員No. 697 新居 幹雄

期日 2004年1月17日～27日

ルート HCMC → Phnom Penh → Siem Reap → Phnom Penh →
Sihanouk Ville → Phnom Penh → HCMC

1月17日（土） HCMC(06:00発・直行バス) → Moc Bai(VN側国境)/Bavet(CA国境) →
Phnom Penh(13:00着、CHAY HOUR Hotel泊)

* 走行距離- 246Km 天候-晴れ 気温-21～32℃

早朝、HCMCを Phnom Penh 行き直行バスにて出発。片道12ドル、国境の出国入国手続きは乗務員が担当、カンボジア入国書類にサインするだけでOK。カンボジア入国に際して乗客のなかでVISAを予めとっていない者がいて通常の時間よりも手間取った。カンボジア側は国道1号線の道路改修が進んでいてフェリー乗り場のある Banam までは極めて快適、フェリーもすぐ接続し、短時間でメコン本流を渡る。Phnom Penh までは約1時間半強の時間であったが道路事情はやや道が狭いのと、改修が遅れていて、あまりスピードが出せない。Central Market の横にある Bus Terminal に到着し、すぐ隣の中華料理店街の一つ北京菜館にて美味しい焼き餃子、麻婆豆腐、青菜の炒め・・・等々で昼食。その後 Hotel 探しに入り、三軒目で1泊@14ドルの部屋をGet (普通は\$15)。何の変哲も無い Hotel であるが、通された6階は5階にあるマッサージ嬢の休憩室、トイレ、シャワーが有り、彼女達を物色できるのと、会話が交わせるのがメリット！ちなみにマッサージ料金は\$4／1時間+チップ。後のサービスは???????????

肝心の客室はツインか、ダブルベット+ホットシャワー&WC付き、TVは21インチ、エロVTR有り！ 夕食はトンレサップ河畔にある Herb Pizza にてとる。Spaghetti のボリュウムには要注意（二人で一皿でOK）。Pizza にはモッツアレーラがふんだんにのっている。

1月18日（日） Phnom Penh 滞在 (CHAY HOUR Hotel泊)

朝食は Pasteur 通りにて麺類を食す。その後、在 Phnom Penh の原田氏と合流、北京菜館にて昼食。午後は車をチャーターし市内見学、王宮、WAT PHNOM、日本橋、Royal Cambodia G.C を見た後、原田氏の弟の Shop を訪問、夕食は彼の隣屋にしているとんかつ屋でミックスフライ定食。その後は Inter Continental ホテルのバーラウンジにて歓談。Shop のカンボジア人社員&原田氏弟の専属キャディも同席。

1月19日（月） Phnom Penh(07:00発) → Siem Reap(13:15着、Freedom Hotel泊)

*航路概ね-300Km 天候-早朝薄曇り後晴れ 気温-19～31℃

6:25に Taxi にて Hotel を出発、途中、原田氏推薦のベーカリーにて特製サンドイッチ(\$1)を買入む。約200名を乗せた高速船(Friendry II)は料金が片道@\$23(黙っていれば\$25)で座席指定。進行方向右側3席、左側2席、最後部に川へ直下型の水洗WC付き。トンレサップ河の両側に開ける農・漁村のどかな光景を見ながら約2時間半を過ぎると川幅がだんだん広がり、トンレサップ湖へ入ったことが感じられてくる。さらに1時間後には周囲が大海のようになり、陸の景色は何も見えない。まさに東南アジア最大の淡水湖である。到着30分くらい前からシェムリアップ港のランドマークである150m程度の小高い丘が点として捉えられる。唯、こ

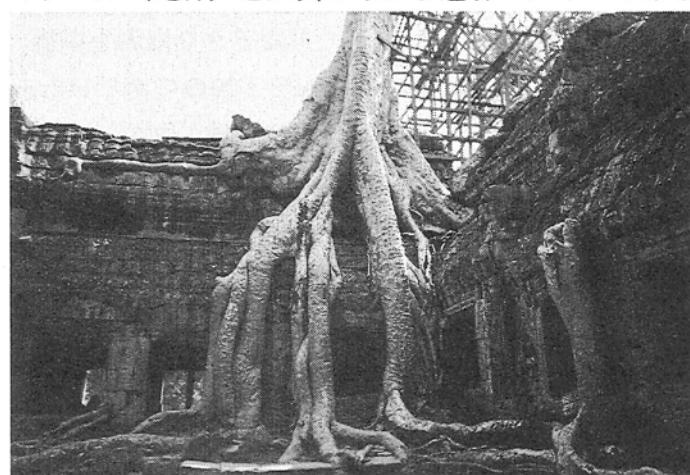
これからが問題である。乾期のため、港の水位が低いのと、水上生活をしている漁民、観光客目当ての仮説程度の飲食・みやげ物業者が航路を邪魔しているためタグボートの助けがなければ最終到着地点に辿り着けないのである。港は乾期と雨季では水位が変わるので要注意なのである。乾期には1Km先の臨時の港での発着となり、この間の道路が悪路のため乗降に30分以上は要するのである。到着地点は乗合Taxi、バイクTaxi、HotelやGuest Houseからの出迎えの車で大混雑である。予め予約しておいた‘92年式Calora(1日\$20)で、Siem Reapの街へ出、Old Marketの近くにある中華料理店で食事(味と料金は合格点)し、休憩を取った後、運転手の紹介で国道6号線沿いのFreedom Hotelに入る。このホテルの利点はRestaurantがオープンエアで小奇麗であるのと、中庭が広く開放的であることである。部屋は標準的なツインベッド、温水シャワー冷蔵庫、TV付きで@\$14(通常は\$15、High Seasonであるとの華僑系が旧正月であるとので提供側は強気である)。3時過ぎからいよいよAngkorへ。エントランス道路途中にある入場券販売センターで2~3日券@\$40を購入、これで3日間は朝・昼・夕と全ての遺跡群を探訪可能である。その入場パスには個々の写真が添付されている(最初に、スタジオでポートレイトを撮り、ラミネート加工されている)。首から吊るすホルダーが必要で予め街の雑貨屋で買っておくとよい。Siem Reapの街と遺跡への道路は完全舗装か簡易舗装がされており、以前のようにラテライト土の砂ぼこりに悩まされることはなくなった(遺跡の復旧・修理を含め日本の援助)。

西参堂から西塔門をくぐり、第一回廊、十字回廊、第二回廊、第三回廊、中央祠堂を経て中央塔への道中、急勾配の階段を登らなければならないので足元には万端の準備が必要である(ビーチサンダル類はダメ!)。暑さ対策、サングラス、飲み水の用意も怠り無く。

帰路は階段が急であるので、各回廊のレリーフ、ヒンズー教の神々をゆっくり観賞しながら回るとベターであろう。また、落日を拝むには、王国の聖山といわれたプノン・バゲンに登れば360度のパノラマが展望できるが、立錐の余地が無いほど観賞客が口没を待っている。帰路は全員が同時に引き上げるので回り道となる象の歩行路があり、そこを通過すれば足が笑わなくて済む!疲れを癒すために本格的なローカルのマッサージ(\$6)をし、夕食は中華料理店で摂る。

1月20日(火) Siem Reap 滞在 Freedom Hotel 泊

8時半スタート、最初はアンコールのWatに次ぐ目玉であるAngkor Tomへの探訪である。南大門の通路から大門の四面仏、壕の欄干のナーガ(蛇神)を鑑賞しながら遺跡のメインであるバイヨンにアプローチ。ゆっくりと中央祠堂へ、ここもかなり足場が悪く急坂である。帰り道は第二、第一回廊を見学、遺跡修復展示コーナーでから鑑賞。巨大に成長したスポアン(よう樹)が遺跡に絡み合っており「つわものどもの夢の跡」的で日本人的感性に訴えるものがある。次に、王の浴用のための池であるスラ・スラーンを見学、昼食は昨日同様中華料理店ですます。午後は、アンコール遺跡群で、最も古いロリュオスのプリア・コー、バコン、プラサット・プレイ・モンティーを見学し、方角を変え、かつての王国の大貯水池(東西8Km、南北2Km)西バライの茶店で休憩。夕食はHotelでとる。欧米人が多く滞在しているためか、洋食等メニューも豊富、味もそこそこ、ボリュームはたっぷりである。オープンエアのため蚊対策は必要。



1月21日(水) Siem Reap 滞在 Freedom Hotel 泊

8時半スタート、今日の観光の目玉のBanteay Sirey へは40Kmもあるためか、運転手から\$10アップを要求された。この遺跡はレリーフも仏像も他のアンコールよりも精度が高く、赤色砂岩とラテライトを使った色合いも印象的である。帰路、プレループ、バンテアイクティ、プラッサトクラバンを

見学昼食はSingapore/Chinese へ、味は期待したほどでなくいまいちだが、冷房、扇風機があり、お茶が飲めるのは、横の中華料理店よりはベターといえる。午後は、アンコール周辺の遺跡プレア・カーン、バンテアイ・ブレイ、コロル・コー、ニヤック・ポアン、タ・ソム・・等探索夕食はホテルでとる。

1月22日(木) Siem Reap → Phnom Penh Paris Hotel 泊

8:20発 13:20 着 距離—約320Km

* 車両—Pajero2.8L 料金—\$100 *天候—晴れ

旧暦・元旦、国道6号線を一路専用チャーター車でPhnom Penhへ。船(片道@\$35)で行く方法もあるが、航路とは違う景色を楽しみたくて、身体にはきついが、あえて、四輪駆動5時間の旅を選んだのである。宿はドライバー推薦のPARIS HOTELへ、部屋(@\$15)は清潔で、バスタブ&温水シャワー、冷蔵庫付きで、おまけに隣室の音付きのうえ、中華料理店まで付いていた。夕食には、お粥と何品かの料理を注文した。

1月23日(金) Phnom Penh → Sianouk Ville(Kompong Som) SOU Ching Hotel 泊

8:30発 12:30着 距離—約300Km

* 車両—KIA 15席 3L/1日 \$15

国道4号線を一路南下し、カンボジア随一の港湾都市&ビーチリゾートKompong Somへ。旧正月のためか市内は結構混雑していた。昼食はVictoria Beachに面した中華の海鮮料理店でとるしゃこ(@\$25/Kg)、ぞうり海老(Slipper Lobster)の1種(@\$15/Kg)、蟹をオーダーしたが、ぞうり海老は絶品だった。Hotelはどこも満杯で、やっとSOU Chang Hotelを探し当てる(窓の無い、ツインのSGL USEバスタブ、WC、TV、冷蔵庫つき@\$14)。夕食は港の近くの海鮮料理店で再度ぞうり海老を堪能。

(ここCompong Somには、CASINOのあるHotelが6軒もあり、@\$15~20で泊まれるそうである。ゴルフ場9Hが既に完成しているが、現在は芝生養生中で来年にはオープン予定

1月24日(土) Kongpong Som 滞在 SOU Ching Hotel 泊

午前中、Kamportにカブトガニの買い付けに向かうが、車が故障し、原田氏の友人Mr. Yeの車でHotelに引き返す。Cambodiana/Chineseで昼食をとり、Ochheuteal Beach南東のビーチで海水浴を楽しむ。この浜には美しい川が流れ込んでおり、白砂で遠浅の静かな海浜である。Nha TrangやPhan Thietよりきれいである。今後開発が進むとこのビーチも汚れてしまうのか? 夕食は英国風Bar&RestaurantでPork Spare Ribのローストを食したが、安くて、ボリュウムたっぷりのおすすめ品です。

1月25日(日) Sianouk Ville→Konpot養殖場→Phnom Penh Chay Hour Hotel 泊

8:30発 10:30/11:30 15:00着 走行距離 450Km

故障した車が直ったので、昨日行けなかったカブトガニの買い付けに養殖場に行く。そこは、シヤム湾に面し、マングローブの覆い茂った海岸沿いにある天然の海老養殖場もある。

帰路、原田氏の弟の経営する Golf Shop に立ち寄り、明日のプレイの道具等の準備をする。昼食兼夕食を北京菜館でとる。

1月26日(月) Phnom Penh 滞在 Chay Hour Hotel 泊

原田氏兄弟ともども、7時20分にHotelを発ち、8時過ぎにはRoyal Cambodia G.Cで18Hをプレイ、客は5、6組程度で殆ど貸しきり状態である。コースはフラットであるが、グリーンはアンジュレーションがあり結構難しい。キャディーは英語をあまり話せないが、ボールはよく見ており、マナーもよい。ゴルフ用具はポチエントン空港前には原田氏経営のレンタル屋があるので手ぶらで行ってもすべて揃えられる。

夕方、原田氏に連れられて、郊外のメコン本流とトンレサップ川が合流する地点にある飲み屋兼お休みどころへ行く。原田氏曰く「ここは、カンボジアの中級以上の階級の人々の溜まり場で、女性に給仕をさせたり、マッサージを受けたり、博打をしたり・・・等々楽しめ、希望するなら泊まることもできるところ」。船で売りに来る、手長海老、マンゴーはじめ各種フルーツ等海の幸、山の幸を食べながらひと時を過ごすとは、まさに、カンボジアの別世界である。ここで最も印象的なのは、メコンに落ちる太陽の光線が川面の色を幾重にも変えるときであり、周囲の静寂さと合わせて幻想的な光景をかもし出すひと時である。VNの騒がしさとは異なった楽園である。

Hotelに引き上げ、Kiwi Bakerで軽食と甘いものを摂り、Cambodiaの最後の夜となる。

1月27日(火) Phnom Penh → Bavet/Moc Bai → HCMC

8:30 発 11:30/12:10/12:30 14:00 着

チャーター車(Camri\$40)で国道1号線を国境の街Bavetまで3時間、通関も客が少なく難なく通過(関係書類は双方の国毎に書き込んで提出) VN側に入国後、車待ちの間 Cafe Da やジュースを注文する。ここで、やっと、VNへ戻ってきたと感じる。VNはサービスのリアクションが早く、初步的なミスも少ない(カンボジアとは対照的)。だが、隙が無く気が許せないところも多い。所要1時間30分でHCMC中心へ到着。

最後に、11日間・約2000Kmを無事走破、病気も怪我も無く旅を終えられたことはなによりでした。また別のルートで旅ができれば幸いです。



アツと言う間の コタキナバル 3ヶ月

千葉県在住 会員No. 666 小野田 恵美子

3月8日、4チャンネルのズーム・インでマレーシア・コタキナバルの画面が流れているのを帰国後1ヶ月にして、なつかしく見ている。

日本人学校の先生御一家と正月元旦にディナワン島で「泳いだっけなー」と。

「南国暮らしの会」に入会して、パワーを貰った気持で3ヶ月のロングステイにチャレンジした私。会の市東さんに紹介していただいた安達さん

先頭が、わたくし

(30年コタキナバルに住んで旅行の仕事をしている)にお世話になり、とても中味の濃い滞在が出来たと感謝しています。

11月10日から、2月6日まで、クリスマス、新年、1月22日のチャイニーズ・イヤー等、行事も多く、獅子舞も目の前で迫力いっぱいでした。

また、会の龍野さん、西川さん、平澤信さんと一緒にツアーや食事など楽しい時がもてたのも、嬉しい経験でした。特に平澤さんには、偶然の出会いでびっくりし、また思わず方を紹介していただき、コタキナバル滞在がより充実したと感じました。

コタキナバルの印象は、活気があり、エネルギーが溢れている街、けれど人々は穏やかで明るく、気持ちが温かいと思います。

食材も豊富で、日本と同じ物があり、長い滞在には自炊をするのに不自由しないし、何より物価が安く、日本の三分の一以下です。

お金の単位も解りやすく、また治安がよく暮らしやすいと思いました。ただ、

すぐうしろ、西川さん 住むところが少なく、家賃も高いようです。また、車社会で街中では気持ちよく散歩が出来ず、すこし残念でした。また、会員の方が居ないのも淋しいかなー。

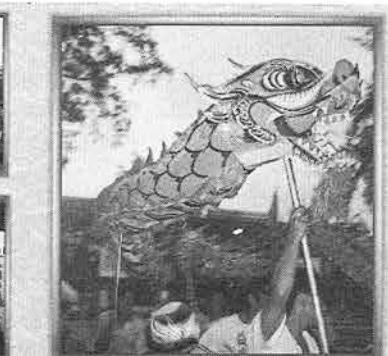
コタキナバルに着いて三日目に携帯電話を買ったので、家族、友人などと、いつでも連絡が取れたことは、とても良かったです(行く前に宮崎さん、高沢さんのお話を聞いていたので)。

最後に、日本でも海外でも人の営みは、喜怒哀楽は同じと、あらためて感じました。

単なる観光旅行でなく、コタキナバルの地に密着した旅だったのが、とても良かったです。



心まで洗われる、きれいな海



迫力満点の、獅子舞

北ボルネオ採訪記～魔の楽園ワンダーランドへ

東京都在住 会員 No. 500 下田 隆士

心地よい揺れにいつの間にかうとうとしていた。コトキナバル到着の機内アナウンスにはっと目が覚める。窓の外はもうすでに太陽が西の空に沈み、雲海をあかね色に染めていた。

やがて黄昏の薄明かりの下、眼下の海面が間近に迫り、ついで陸地が目に飛び込んできた。その瞬間私はあっと息を飲んだ。そこは大きな緑地帯に成っていて、そのいたる所にイルミネーションの輝きが、まるで宝石をちりばめた様にキラキラと光輝いているので有る。

それは、まさにお伽の国、これが私が初めて目にした、遙かなる常夏の島ボルネオ島の最初の姿で有った。成田からコタキナバル迄直行便で5時間の旅で有る。

この北ボルネオ、サバ州は石油の産出は有るのだが、あがりの殆どを中央政府が簒奪しているそうで、他に木材やパームオイル（ヤシ油）も有るが未だ手つかずの自然に目を付け、新しい観光事業を目指して街のインフラを整備し、縁多き近代的な都市に変貌を遂げている。土地の人は愛着を込めて、この町をKKと呼んでいる。

コタキナバルの概略について

- ・人口 30万人 原住民とマレー系 75% 中国、インド系 25% 国民性はきわめて慎み深く温厚で友好的。
- ・気候は 雨期は11月中旬～2月中旬迄。
短時間にザーと降るいわゆる南洋型。時としてモンスーン性の強風が東のサンダカンの方から吹いて海がしける時も有る由。
- ・生活物価。このマレーシアでは貧しいローカルの人々の暴動を恐れ國の方針として食事、バス、電話代等の生活基盤に拘わる費用を、極力安く安定的に抑えている由。
- 特にラマダン明け（マレーシアの正月）をあて込んで売値を吊り上げた業者は逮捕され罰せられるとか物価は日本の4分の1位。
- ・病院 国立病院と市立病院が有り、他にも24時間営業の開業医も沢山有る。治療後は領収書を日本での保険のために使う。

・市場とスーパーマーケット、中央市場と魚市場があり、大きなショッピングモールやセブンイレブンもある

・コンドミニアム。高層の物件は2棟有り3ベットルームで日本円で¥75,000～¥90,000と高め（但し年間契約に成ると安く成る）

その他2階建てのアパートメントも有り安いホテルの契約方法も有る。

空港ビルを出ると今回10日間の旅の全てをアレンジして頂いた Sweet Holiday の安達氏（市東理事の紹介）の出迎えを受け、市の中心街に有るシャングリラ Hotel にチェックイン。この Hotel は交通の便この上なく、その背後が緑に囲まれて閑静で料金は一泊一室¥3,400（朝食付）。1ヶ月単位で契約すると安く成る。程よい環境で程良いサービスを受けられる、まあまあのクラスだと思う。

とりあえず部屋に荷物を置いた我々は安達氏に案内されて Hotel 前の大通りを渡り直ぐ近くの海鮮レストランに行く。着席するなりすぐさまミニスカートの若い女の子がビールと料理の注文を取りに来る。

これらの女性はビール会社からの派遣店員で、そのビールの売上高によってマージンが貰えるシステムに成っているとかで、それはもう愛嬌たっぷりにビールを我々のグラスについてくれるのだ。テリマカシー（ありがとう）と言うと顔をくしゃくしゃにしてサマサマー（どういたしまして）と答える。これらは英語の sam same がマレー語に変化したもので、お互い様どう致しましてと言う意味。

この時安達氏から教わったのはご飯は（ナシ）魚は（イカン）菓子は（クエ）カッコ内マレー語で、ご飯はナシ、魚はイカンで菓子を食え・・・ダジャレ。コーヒーはCOPY、タクシーはTEKUSI、やがて満腹に成りマイタン！（おあいそ）と声を掛けると勘定書を持ってくる。そして食べ残した料理は頼むと綺麗に包んでお土産してくれる。実に合理的。いきなり、雨が降ってきた。すると、すぐに店全体を

覆うドーム状の巨大な車輪付テントを3人の少年達が大急ぎで押して来て、あつと言う間に広げた。手慣れた作業で有る。我が日本では何でも直ぐ電動式を導入するが、この地では機械より人件費の方が遙かに安いので有る。

翌朝、フィリピン市場と魚市場を冷やかしに出掛ける事にした。朝はすがすがしい程涼しかったが、太陽が高く成るにつれさすがに汗がしたり落ちて来る。あわてて日陰に逃げ込むと海からの乾いた風が、ほてった頬を爽やかに撫でて行く。

街の何処にいてもこの海からの風が吹いて来る。そして吹き出る汗もサラッとしていて実際に気持ちが良い。市場を抜けると岸壁に出た。そこで4人の男と一人の女が釣りをしていた。見ると小さな木片を削って浮子を自作したらしく、簡単な仕掛けに成っている。エサはバナナの実をサイの目切りにして、入れ食い状態で掛かる。

サッパに似た背ビレにトゲの有る小魚で犬にやるんだと言っていたが、どうも夕食にフレイにして食べるか、干して僅かばかりの小遣い稼ぎにでもするつもりかも知れない。

少し離れた所で5、6人の少年達が濁った海水の中で泳いでいた。妻がカメラを向けると皆いっせいに手を振りポーズを取る。もっと撮ってくれと岸壁に駆け上がっては次々に飛び込む。

その瞳の可憐な事。東京ではついぞ見る事がなかった爽やかな少年達の瞳に感動して妻はシャッターを押し続ける。

別れ際に全員で記念写真と言う事に成り皆でポーズをとっていたら、一人の背中にコブを背負ったせむしの少年が、自分も仲間に入れてくれと言って割り込んで来た。そのちっとも卑屈さのかけらも見られない屈託の無い表情。そしてそんな彼を当然の如く受け入れて彼の肩に手を掛ける仲間の少年達の朗らかな表情を見ると、ああ～、この旅に来て本当に良かった

なあ～と、東京での多忙な生活にささくれだつた心が次第に癒されて行くのを心底強く感じたのである。

北ボルネオ鉄道の旅

3日目の朝、いよいよ待ちに待った北ボルネオ鉄道の旅である。

この鉄道は元々英國統治時代に木材の積み出し等に使われていた古い歴史の有る鉄道で現在はディーゼルカーがローカルの人々や生活物資を奥地まで運んでいるが、我々の乗る観光用の蒸気機関車と列車は当時使われていた、そのままを何度もレストア（再生修理）を重ねながら、今日も尚現役で走っている超年代物…マニアにとっては垂涎の的であろう。

やがて、ポーと言う長い汽笛と共に列車はガタンゴトンと、ゆっくりと走り出す。そして民家の軒先をかすめる様にピー・ポーと汽笛を鳴らしながら進む。家々の窓から軒下から子供や大人達が盛んに手を振る。我々も童心にかえりそれに答える。

やがて市街地を抜けて郊外へとさしかかると一転して牧歌的な草原のパノラマが広がる。遠く白雲の下に見えるのはパームツリーのプランテーションだろうか。山羊の一家がごう音に驚いて、いっせいにこちらを見る。ずんぐりした水牛が泥沼にはまり込んで昼寝を決め込み、その頭部に一羽の白鷺が止まって毛の中の虫をついばんでいる。

何もかもがのどかで、この世に生存の為の争い事等が皆無の様にさえ思えて来る。そしてトンネルを抜けると一転しておどろおどろし沼地とバナナ、ヤシ、マングローブの密林。ムツとする熱気でむせかえる様なジャングルの木々の間を巨大な黒い列車が白い煙をはき散らしながらシッユ！シッユ！ガタン ゴトン ガタン ゴトンと力強く右へ左へぬう様にばく進する。

この広大なボルネオの大地を何処まで進むのでろうか…やがて急に視界が開け一の

川にさしかかる。鉄橋を渡るとそこがパパールである。ここで我々は折り返し。帰路はたちまち楽しい食堂車に早変わり。車窓からの美しい景色を見ながら食事を楽しむ。短い時間ではあったが（往復3H）広大なボルネオの片鱗を、そしてそれらのさまざまな顔を我々に見せつけてくれる胸おどる旅であった。遠い少年時代を彷彿とさせる蒸気機関車が、その夢の様な世界へいざなってくれたのである。

ジャングルのリバーカルーズへ



ジャングルのリバーカルーズ

アメリカ人3人、大阪から来た若い4人組、我々2人とガイドの総勢10人でクルーズのボート小屋に向け出発。ビューフォートを過ぎると間もなく到着。しばし休息の後ライフジャケットと双眼鏡を与えられボートに乗り込む。ガイドのハンサムボーイニコラスがシムラさん（下田）バウ（舳先）へ来いと手招きする。我々が船の最先端の特等席に座ると、エンジン

音以外は何も聞こえない静寂の世界であった。すぐ目の前の浅瀬では、水牛の群れが水浴びをし、名も知らぬ水鳥が水に戯れている。やがて、支流の更に狭い水路へと進む。両岸からも上からも長いツタが垂れ下がり、一見怪しげな雰囲気を漂わせて居る場所に来てエンジンは止まった。

居たのである。数匹の子猿が木々の間を飛び回って夢中になって仲間と戯れている。更に日をこらすと、鼻の長い顔をした猿が木の先端のまだ若い葉を手当たり次第にむしっては口に運んでいた。しかし見慣れない侵入者が気に成るらしく、ちらっちらっとこちらに警戒の目を向ける。すると群れの中のボスらしい一回り大きいのが出て来て、こちらに見事な太鼓腹を見せつけて足を広げ威嚇する如くボート上の我々を上から睥睨する。

鼻が長く大きく、しかも赤ら顔の不適な面構えはまるで鞍馬山の天狗様の様な風情・・・ボルネオにしか生息しないと言うテングザルの生態を目のあたりにした我々は充分に満ち足りた気分で今来た水路を戻った。リバーカルーズは、まさに世界ウルルン紀行そのものであった

楽しい体験、今思い出しても可笑しくて笑える失敗談の数々。ボルネオは、ひとすじなわではいかない実に楽しき一杯、やさしさ一杯の魅惑の楽園で、夢の様に過ぎた10日間であった

旅行スポット情報

知らないうちに、麻薬犯罪人に？

（外務省情報より）

最近、海外で日本人が麻薬や覚醒剤などの「薬物犯罪」に関わり逮捕、拘禁されています。

どこのくにでも、重い刑罰が、国によっては、死刑、無期懲役が科せられています。

こんなことにならないように、十分注意してください。

注意 その1 怪しい薬物は買わない（特に、売りつけられたとき要注意）。

注意 その2 荷物を預かったり、その荷物を日本に持ち込まない。

格安パック バリ旅行

加藤 明・すみ子

大人宮寄哲郎氏に張り付いてフィリッピンへ行ってみたい！調整して明日にも確定しようと決めた矢先に524川崎さんからとて置きの情報が届いたのである。何とほんまかいナの14日間で￥72,000！旅行社に電話したところ行くならすぐにご来社をと言う。9日間も、14日間も価格は同じであった。うちは13日間で4日後出発のツアーを組んでもらえたのである。

川崎さんの緻密な調査には脱帽、まさにパック王と言うにふさわしい。

雨季だから蒸し暑く、ホテルのランク等が安さの理由かと想像しながら出掛けた。蒸し暑かったが結果は満足の晴れつづき、スコールの通り雨はさ程のものではなかった。

クタの宿はほぼ中心に位置していて2年目という清潔なホテルであった。繁華街にもビーチにも徒歩7分ぐらいで行けたし、部屋前廊下からは沈む夕日が見えた。朝の食事だって旨かった。うちのようにMAX二ヶ月滞在、できれば毎月帰国を希望の場合は安いパック旅行に限る。どう言う仕掛けか判らないが利口なパック旅行を2回もすれば相場値のパック旅行一回分が出ると言うものである。このように宝を掘り当てたような気分は大好きである。川崎大師は本物であった。

[日本語習って月給倍増]

クタの街では早速二人の情報源を見つけた。一人は大阪のホテルで働いたことがあるという潜りのインストラクター赤シャツ青年、今一人は地元旅行社の社員のクニヤンである。赤シャツがマタハリデパート裏にある広くて素晴らしいキッチン付きバンガローに案内してくれた。あれがウブドにあればと今思う。私たちはこの二人に毎日会っては、店を休憩所のように利用した。街の至る所でオーストラリア人を見かけるものだから、私達は観光客の大半はオーストラリア人だと思った。だが赤シャツのワヤンは日本人とオーストラリア人が各35%、残る30%が韓国、中国、米国人だと教えてくれた。真偽のほどは判らない。

日本語よりも英語のほうが達者なニヨマンは社長の車スズキの4WDで各所を案内してくれた。朝9時から18時頃まで僕の家にも家寺があつて先祖代々を祀っている、この国には一般の勤め人には税金がない等勉強になるガイドが聞けた。清算は￥2,500が約束の代金であったが千円札三枚￥500はチップとして渡した。安心で値打ちありとみてその後もこの車に何度も厄介になつたのである。

レギヤン通り面の大きな海鮮中華店で夕食を食べたが店員の日本語熟は相当なものであった。ウェイターの青年は月給約6500円。10時間の26日勤務。厨房で働く妻も同額。二人の稼ぎでは日本語学校の月謝は出ないという。赤シャツの従兄弟はとてもいい発音で日本語を話した。彼は二年間月謝35万円先払いの学校に学んだ。よくがんばった一番の学生は全額、二番だった彼は学費が半額免除で返金されたと自慢げだった。これは大変なお金である。また彼はJTBバリ支店への入社を熱望していた。仕事はきついが月手取り額が約2万円になると言う。一度は受験したようだがひどいコネ社会だから支店長や部長の知己でないと入社できないのだどこぼしていた。

焼き鴨を食べさせるウブドの高級レストランでは、すみ子が使っている「旅の指先会話帳」が店員たちの人気の的となってしまい、勤務時間中にも関わらず横に座り込んでのお勉強が始まったの

である。これにはいささか私も驚いた。次回来る時には参考書を必ず持ってきてねと言った熱心な眼差しが忘れられない。余談であるが昨年L.Sの下見に行った青島の日本料理店でも私達が持つ本に数人の中国人店員がテーブルを囲んだことがあった。語学本を持って行くと喜ばれること請け合いでいる。買いたくてもないと言っていた。出版文化が遅れているのか確かに中国は日本語熱の割には本屋にもデパートにも参考本が見当たらない。

[**【パリの民家に招待される】**

次の日旅行社にはこれも裸足の社長が居た。社長はさすがにクニヤンより日本語が流暢であった。一昨年妻にねだられて日本に一週間の旅をして東京と横浜を行った。娘は今ジャカルタの大学で日本語を学んでいるが2年後に東京の板橋研修所に一ヶ月入ると言う。27万円ぐらいの費用がかかるようだが、目に入れて痛くないといった風情がよく判る。それと言うのは社長は携帯電話で娘さんを呼び出しては私達と話をさせるものだから娘さんに情が移ろうと言うものである。

次の日すみ子が一度は行ってみたいと言うのでパリのアロマセラピー、マッサージの割引券を社長に求めたところ社長は自分が案内して連れて行くと言う。2割引券だが2割は当社に戻される。加藤さんには色々教えて貰ったお礼にと4割引の上に往復送迎もすると言う。えらく安上がりなマッサージであった。この送迎中に社長は自宅への招待を申し出てくれたのであった。これには驚いたが嬉しかった。今回パリ初旅ながら3日目にして地元の社長の自宅訪問の機会を得られたのは、そして川崎ご夫妻を同道できたのは大変な幸運であった。

挿絵は記憶で描いた社長の自宅であるが確かに家の敷地内にお寺があった。お寺はお墓であった。これを家寺と言うがさしずめ日本の仏壇や祠に当たるのだろうが、信心深いここまで規模が大きくなるのだろうと私は思う。

屋敷の配置は、まず家寺の位置が決まるのだと思う。私達が通され昼食をご馳走になった東屋が儀式を行なう宗教上の拝殿なのかもしれない。風が通る格好の昼寝場だなあ等と話していたがいい罰当たりだと今思っている。

社長は近隣の篤志家だと思う。大きなパラボラアンテナはNHKを受信するためであり、家屋の応接間の位置には書架があり多くの日本ビデオと本がびっしりとあり、モニター、音響機器は誰もが使える開放図書館を目指していると言う。私は今度日本紹介ビデオなんかを持参したい。

[**【どこにもいる子悪党】**

一部のパリ人は日本人からお金を騙し取るために、彼らの生活費稼ぎのために使っている。デンバサールで実体験した二つにこんなのがある。一つは雨上がりの4時頃人も少ないお寺、今一つは博物館であった。彼らは旅行者が良く行くお寺や博物館に張っているらしい。お寺では、黄色い帶紐を腰に巻かされることがある。知っていたので巻かせた。上手い日本語で寺院の説明が始まった。最後にお布施を置きなさいと言うのである。来たか！と思ったがお布施は強制される物ではない。だがこの男はしつこかった。すみ子が変だから行こうとサイン送っているのに、気が弱い私は置いてしまった。困ったものである。

近くで偶然にも子供達のパリ舞踊練習風景に出あえた。先生は実に格好よく子供たちも上手くてこれはとてもいい題材の写真が撮れたと喜んでいる。観ていると温和な男が日本語で話しかけてきた。巷のパリ人も日本語の練習かなぐらに思っていた。するとこの男は博物館で働いているとい

う。もう閉館していて閉めている博物館に「せっかく来たのだから、前庭だけでも見て帰れば」と言う誘いに、それもそうかと思い男の後についた。男は博物館のこと、家族のこと、進学する娘のことそして自分が無職であること、生活苦などを話始めた。お前もか！二連続とはなんと目出度い日かと思った。私達はもう帰ろうと話し合ってタクシーが拾えるところまで500mは歩いたが、その間この男はずっとくつづいて離れない。そして時間があるから夜店に案内するだの何だのと言う。すげなくすると説明に対してチップをくれと言う。さっきの寺男から貰えと言わんばかりに私は嫌だと言いのけた。だがこれもしつこかった。根気負けの上に気の弱い私は小額を渡してタクシーで逃げ去った。

赤シャツでさえやった。赤シャツが案内してくれた海鮮食堂では私の目の前で計った魚の目方が店員の手で勘定書に1.5kgと記入された。赤シャツがそれを2.5kgに直す現場を私は見逃さなかった。これは何だと店員に言ったらすっ飛んで来た赤シャツが悪びれた様子もなく元通りに直して涼しい顔である。客を案内して総売り上げの何%かを戴く赤シャツのほんの可愛いごまかし額は見逃してやっても良かったのがあちらがゲームならこちらも見破り遊びと言った感覚でいると結構面白いバリである。

川崎さんが後述する両替商の場合は桁が違うし、可愛げ何ぞは微塵もない。決してごまかされではないのでよく読んで欲しい。

[オプショナルツアーの料金]

今回私たちは出発前に一人2万円のボロブドール日帰りツアーを組んでもらって発った。大手小社に限らずオプショナルツアーの料金は、現地の旅行社価格の二倍から三倍、私の経験ではエジプトでは四倍や五倍はざらのようであった。しかもこの後、彼らは地理不案内と車まかせの弱みに付け込んで行きたくない土産店や産地の案内を申し出る場合が多い。旅費を使って来ている貴重な時間を奪われるので着いたらすぐにそれらに応じない旨を私は告げる。するととたんにサービスが悪くなる場合もあるがすっきりしていいと思う。バリのように日本語が使えて円払いができるような国々ではツアーは現地の旅行社に組ませたら半額以下で安くて楽しいと思う。お試しあれ。

[とても楽しいパンガロー探し]

バリの宿はピンからキリまで豊富で、見学容易。「ここだ！」が「こっちだワよ！」になり次のパンガローを見れば「ここが一番ヨ！」に変わって爆笑した。つまりどこも素敵なのである。

日替わり弁当は日ごとに変わるが川崎千恵さんと私たちは10分後には変わっていて「もうしゃべらない！！」と笑いこけていたのがおかしい。

もうそれはまさしくウブドの宿、熱愛症候群発症の症状であった。その原点が原風景でありバリ人の審美眼とセンスの良さだろうと思う。それに重ねて彼らの優しい眼差しに秘められた誇りが非常に稀有な文化だと私には思える。日本人でさえそう思うのだから、欧米人から見ればまさしく神秘の国であろう。

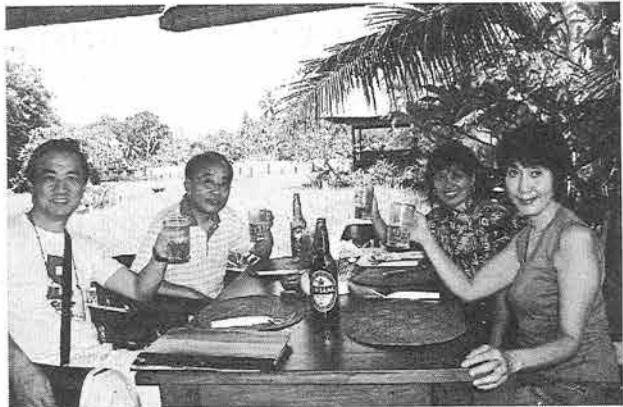
私達は今後パンガローの泊まり歩く記が書ける程にあちこち泊まり歩くことになると思う。 Chernマイの空気汚染はトラックが走らないこの地には起きないのが魅力である。

では川崎勇さんにバトンタッチ！



会員番号 524
川崎 勇・千恵

会員番号 696
加藤 明・すみ子



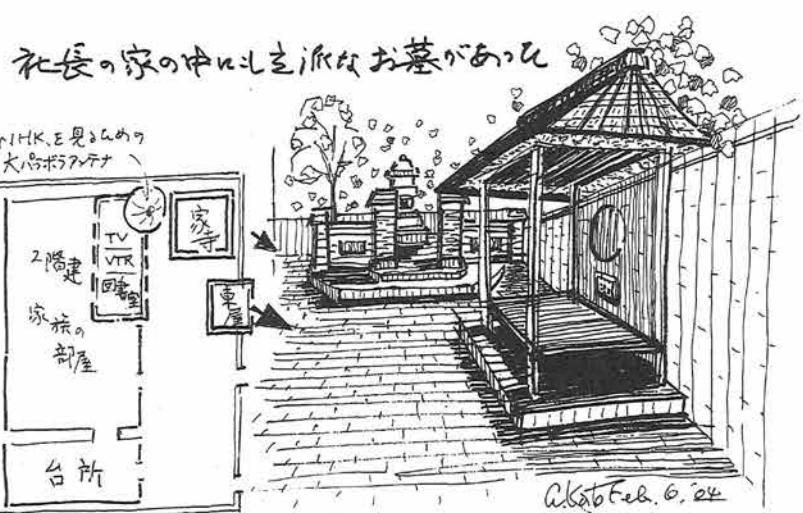
写真上から：閉館後の博物館入り口ロビーで練習に励む学生達、目もよく動く（デンバサール）

写真左上：日本語学習熱の高さと真剣さには全員が驚いた（ウブド）

その右：信心深いバリ人は正装して供え物を頭上に捧げて運ぶ（断崖絶壁に建つウルワトゥ寺院）

下段：招待された旅行社社長の自宅東屋で食べた昼食はすごくおいしかった（デンバサール）

下段右：ライステラスを借景するレストランは高級らしく高価（ウブド）



南国暮らしの会に入会後、ロングステイ（L S）の言われているタイ、マレーシア、バリ島、フィリピン、オーストラリア等を順次下見をしながら将来の L S 地を探そうと、今年になって自由の身になったことを契機に、1月にチェンマイ、2月にバリ島と探訪してきた。

2月のバリ島は雨季でもあり、5月以降の乾季のベストシーズンに比べて観光客も少なく、むし暑さを多少我慢すれば、果物も美味しいシーズンでもあり、人がごった返すほど多くもなく、雨もスコールが一時降るだけで、旅をするうえではなんら問題ない時期だった。

私たちは2月8日から12日間、幸いにも同じ旅行社のパックツアードで4日前に出発された加藤様ご夫妻（会員番号696）と期間の半分をご一緒させていただき楽しさ倍増の旅行ができた。旅といつても、前提が L S なので、まずは候補地の選択を優先し、その合間に観光するという行動パターン。一週間で20件位のバンガローめぐり。

バリ島のテロ事件以降、観光客が激減したそうだが、最近ではだいぶ観光客も増えているそうだ。ただ、この時期はバンガローはかなり空きがあり、ハイシーズン以外は予約なしででもステイ先は心配なさそうだ。観光立国とはいかないまでも、観光立島（バリ）であることは間違いないようだ。外国観光客は大半がオーストラリア人、後はアジア諸国から来ているという印象である。そのような観光立島でありながら、この2月から観光ビザでの滞在期間が短縮されたが、今後、どのように影響してくることか。特に1ヶ月以上の中長期滞在を考えている人には面倒な手続きがありそうだ。

[2月1日から変更になった査証（ビザ）取得について]

今までビザなしで60日間の滞在が認められていたようだが、私たちが行ったこの2月からは制度が変わり、観光ビザでは30日間までの滞在しか認められなくなった。しかも、

● 空港でビザ取得の費用がかかる。3日以内の滞在は米ドルで10ドル、4日以上は25ドルが科せられる。旅行社の注意書きには1996年以降に発行された米ドル紙幣と制限されている。

米ドルはやはりバリ島では強く、旅行社のオプショナルツアーも米ドル表示になっているのでビザ取得費とは別に、多少の米ドルは持参した方が何かと便利かもしれない。

もちろん米ドルがなくても、円をルピアにチェンジし、ルピアをドルにすれば、2度のチェンジレートで多少の損は発生するがドルを忘れて心配することはない。

● 30日以内の滞在は何ら問題ないが、30日を超える場合はいろいろ制約がある。

- 一つの方法は30日以内に一旦出国し、再入国すれば、又、30日間の滞在が認められる（ただし、出入国の航空費とビザ取得費が必要）。
- もう一つの方法は、現地の旅行社にビザの申請を代行してもらう方法。

それを、ソシアルビザというのか？ 私は未経験なのでそのノウハウを知らない。

話しへは、申請手続きに100万ルピア、代行手数料50万ルピア、合計で、150万ルピア（日本円で2万円）が必要。最長で6ヶ月間の延長が可能と聞いている。

[空港に着いたら、ビザ取得の窓口が大混雑]

飛行機から300名もの乗客が降りてくると、ビザ取得窓口はたちまち長蛇の列となる。

米ドル支払いの窓口が2ヶ所、支払い後、隣のビザ取得窓口4箇所で、それだけの人の手続きを行なわなければならないので、手続き完了までには、おそらく40～50分ぐらいはかかったようだ。その後のイミグレーションはがらがら。バック引取りターンベルトは終了。周りに綺麗に並べてあった。ビザ手続きも徐々に慣れてきたり、対策が打たれたりして、次回の訪問時にはきっと改善されていることを期待したい。

[両替商のマジックショウ！] (ごまかしテクニック解説)

両替時の注意事項については、バリ島に限らず、どこの国でも、両替で受け取った紙幣をその場で、自らが確認するということが必要であるとは、どの旅行ガイドにも記されているのでご承知のことと思う。一旦受け取って、その場を離れてから、不足に気がついても後の祭りです。

立て看板に書いてある「政府公認」、「ノーコミッショナ（手数料なし）」の文字はそのまま鵜呑みしないほうが良いと思う。必ず前もって、コミッショナ無しかを聞くこと。後でのトラブルを避けるため。

その店では、2万円の両替をした。円とルピアのレートは（空港内の市中銀行レートで1万円で77.5万ルピア）80万ルピアと市中銀行の一般レートより良いレートを表示している。

店内は両替するだけなので広くはない。カウンターがやや高めで、私の胸近くまであった。脇から覗くとカウンターの内側は大きな引き出しがあり、その中には紙幣がバラバラに入っている。

2万円差し出すと、2万ルピア（日本円で260円位）で60枚見当を（厚さにして、1~1.センチ）を私に手渡しカウンターで勘定させる。10枚1山（20万ルピア）で6山できた。まだ、2山足りない。2万円分は、160万ルピア。私がそう言うと、両替商が10枚1山を2山作る。それを私が全てまとめて手にすれば、80枚手元にくる。

が、そこからがマジックショウの始まりである。その山を全て向こうの係員（マジシャン）がまとめるのである。それからまた、10枚ずつ同じ山を作っていく。まるでトランプゲームのそのカード配りを私達は3人が6つの目ジッと見ていた。すると脇からアシスタントが紙幣4、5枚を、私の目の前でちらつかせて「スマールチェンジしないのか？」と言いながら、じっと見つめている私の視線をお札で遮るのである。その一瞬。8山のうち2山を右腕に隠すようにして、手前の引き出しに引き落としたのだ。巧妙で、発見できたのは私一人であった。

最初に渡した厚みの感覚を覚えさせておく手口なのかもしれない。2万円で5000円ごまかす早業は随分練習したものと思う。なんだか今回は早くお金がなくなったなと思ったような時は、ひょっとしたらごまかされていたのかもしれない。

[両替所の注意事項]

- ① 市中銀行のレートより極端に良いレートは繁華街の小さな両替商では考えられない。損してまで両替はしないと思った方が良い。
- ② 両替伝票を起票して、サインさせられるところは信用できる。
- ③ 小銭を束で勘定してくるところは要注意（2万円で80枚は札束として多すぎる。それが彼らの狙い目、大きい札で枚数が少ないとごまかしにくいからである）
- ④ 信用できる両替所は、数え易い10万ルピアで7枚と小銭である。ごまかしようがない。

[お勧め防御法]

したがって、「10万ルピア紙幣で欲しい」と言ってみて「ない」と言えばその両替所を使わない。これは一つのいい防御手段と思う。

- ⑤ 安心できる両替所—市中銀行、DFSの両替所、大手スーパーの中の両替所はまず安心。
- ⑥ 電卓に細工を施している店もあるようなので、自分の電卓を用意する方が良い。

バリ島はやはり南国の楽園であり、癒しのリゾートであることは間違いない。海の景色、田園のライステラス、美術芸術等伝統文化が同居し、旅の満足感を充足してくれた。

とりわけ、信仰心が篤く、人懐っこくフレンドリーな日本語修得得意欲旺盛なバリ人との出会いは、再訪したい気持ちを増幅させた不思議な国である。

海外ゴルフ情報

ゴールドコースト (2004年2月15日現在) 情報提供 磯崎興志 (No. 586)

- ① Lakelands Golf Club (TEL 5579-8700)
Part 72 11コース／18 6489m fee 105au\$
 - ・特に、芝が絨毯のように良い、池に絡む、俗化されてなく落ち着いた雰囲気
 - ・宿泊施設以外完備
- ② Glads (TEL 5569-1900)
Part 72 5876m fee 80\$
 - ・フェアウェイ良し、広い、
 - ・諸施設完備
- ③ Gainsborough Greens (TEL 5546-6003)
Part 72 6069m fee 60au\$
 - ・コース幅 やや狭い、年数を経た自然保護林、22のウォーターハザード
 - ・カンガルーとwith play
- ④ Parm Meadows Golf Course (TEL 5594-2450)
Part 72 6319m fee 80au\$
 - ・マーシュ設計 大京オープンで有名
 - ・パークツリー、池に囲まれた宿泊設備あり
- ⑤ Royal Pines Resort (TEL 5597-1111)
36hole Resort Style fee 105au\$ (宿泊客 60\$)
 - ・芝は良い、フェアウェイはフラット、gps付きカート(ピンまでの距離 mで表示)
 - ・クラブハウスはビル、高層階にホテル、レストラン(日本食あり)

タイの バンプラ国際G・C (2004年2月15日現在) 情報提供 松井忠市 (No. 563)

住所 45-006 tambon bangpra amphur sri racha c
honburi 20210 thailand

TEL (6638) 341-149, 341-405, Fax(6638) 341-151

料金(パッケイジ) 平日-1100B 土・日-1800B (1B-約3円)

貸しクラブ 2000~500B

電動カート料金 18h-600B 9h-300

キャディーフィー 18h-180B 9h-120B

チップ 100~200B

プレーの申込み方法 ゴルフ・ホテルとも2ヶ月前より予約受付

日本語専用 (038) 341405

Eメール — generabp@samart.co.th

日本人スタッフ 2, 3ヶ月前まで女性がいた?

コースの環境 コースの中に、ホテルがあり、日本食、風呂も楽しめる

コースの特徴 フラットな18h、樹齢を重ねた樹木や池あり

マレーシア・ペナン州 (2003年8月25日現在) 情報提供 石原 彰太郎 (No. 495)

① **Bukit Jamble Country Club** (TEL 04-644-2255)

18h (設計は、ロバート・トレンドJR) fee 平日RM70、週末RM150

- ・ かなり起伏があり、フェアウェイも狭く、上級者向きのコース
- ・ 空港近くの高台にあり、眺めも楽しめる

② **Penang Golf Resort** (TEL 04-578-2022)

36h (設計は、グラハム・マーシュ) fee 平日RM75、週末RM120

- ・ 超平坦なコースで、ゴルフの自信をなくした時の自信回復のリハビリコース
- ・ ペナン大橋を渡った半島側、中心地 (ジョウジタウン) から約50分

③ **Kristal Golf Resort** (TEL 04-582-2280)

18h (設計は、杉本英世) fee 平日RM80 (南の会会員RM60)、
週末RM120 (南の会会員RM100)

* シニア特別価格 カートと食事付き 平日RM75、週末RM123

- ・ 適当な起伏があり、本格派コースといわれている
- ・ 豊かな自然と、景観の良さを活かしたデザインとレイアウトが評判

マレーシア・ケダ州 (2003年8月25日現在) 情報提供 石原 彰太郎 (No. 495)

① **The Golf Club Datai Bay** (TEL 04-959-2700)

- ・ フェアウェイも狭く、大木がせり出したホールが多く、かなりタフなコースである
- ・ 太古の熱帯林を切り開き、前は美しいアンダマン海の景観がすばらしい
- ・ ランカウイ島にあり、ペナンからフェリーで2時間、飛行機で30分のところにある
- ・ ゴルフ場近くの「ダダイ」と「アンダマン」は泊まってみる価値ある最高級ホテル
- ・ ランカウイ島は免税の島、酒、タバコ等すこぶる安いので買い物も楽しめる

② **Cinta Sayang Golf & Country** (TEL 04-441-4666)

fee 平日RM80、週末RM120

- ・ 平坦で、距離も短くやさしいコース。池の多いのが特徴
- ・ ゴルフ場に隣接して多くのコテッジがあり、泊りがけで安くプレイできる
- ・ ペナン州に隣接した街、スンガイ・パタニにあり、ペナン島から約1時間

ペナン州、ケダ州には他にも良いゴルフ場があります。

ゴルフ場で、期間を決めて行なう、安いプロモーション価格があります。

マレーシアは熱帯気候のためボールが良く飛ぶようです。お試しになっては?

旅行スポット情報

出かける前に、念のため、開いて、見てください。

「海外安全ホームページ」 <http://www.mofa.go.jp/anzen/>

楽しい旅行はまず健康管理から

「世界の遺留情報」 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/index.html>

海外赴任、留学が決まったら

「国・地域別海外在留邦人マニュアル」 <http://www.mofa.go.jp/manual/index.html>

冊子、ビデオでわかりやすく安全対策ができる

「海外安全についての冊子とビデオの紹介」 http://www.anzenn.mofa.go.jp/c_info/about_center/index.html#video

九州第1回総会立上げ奮闘記

九州支部長 会員 No.128 稲延 駿

決定から終了まで (H15. 6/3~7/12 約40日)

6/1(日)雨後晴

南国暮らしの会東京総会～大崎南部労政会館より帰宅 (23:00)

6/2(月)晴 8:00

- ① 池田理事長への御礼電話（留守）
- ② 宮寄副理事長に御礼TEL
- ③ 竹村九州副理事長へ総会の報告をする

6/3(火)曇

竹村氏へ2回TELし、7/12九州創立総会決定通知す。

6/7(土)

総会立上げの為竹村氏の要望も有りFAX購入。セットする。

6/9(月)

8:30 宮寄副理事長より返電～四国から。

14:30 池田理事長に7/12開催を伝える。

九州総会文作製。

FAX初操作で会社に数回、竹村氏から教授を受く。

6/10(火)

竹村氏宅へ直行(福岡)JRからバス往復運賃1,080円。

2人で、案内状書き 11:50～20:00まで

封筒宛名書き 15通終了 帰り博多駅ポストへ投函。

6/11(水)

総会案内状6通自宅へ返還さる(料金不足原因不明
同地区発信異常なしなのに)、40円切手6通貼って福
間郵便局より発送する。図書館へ行き～日本経済新
聞、西日本、毎日、朝日等各新聞の発送先メモする。

6/12(木)

「西日本新聞情報ネット掲示板」掲載依頼の葉書文作
製発信(福間郵便局)

17:00 総会案内状筆ペンにて6通宛名書き発信す

6/14(土)

池田理事長来福。所用で不能ならば他の誰か、
FAXにて池田理事長へ総会準備資料を送信する。
九州、山口、四国、広島、島根等会員リストアップ
一覧表を作製する。(会報より抽出)

6/15(日)午前中次々とTEL

- ①池田理事長不在
- ②竹村氏とコンタクト4回

③ 宮寄副理事長へどなたか九州出向講演依頼

④ 竹内氏前会長帰国を知り(24日まで滞在の
情報を知り)方々に連絡するもキャッチ出来ず諦め
る。(この時点での万策尽きた為)

6/16(月)

中国、四国、島根方面と九州会員リスト表27名分を
コピーし竹村氏へFAXで発信す。後刻竹村氏へ宮
寄副理事長講演依頼の件伝える。

6/18(水)

13:30 池田理事長より返電、6/22理事会終了次第來
福者指名連絡する由。

14:00 読売、朝日、毎日、日経の新聞社と連絡OK。
「南国暮らしの会」会報とロングステイ財団誌より
必要記事を抜粋し案文作製。

6/19(木)

台風10号発生！(九州上陸昼頃)

福岡竹村氏宅集合日～豪雨中、車でJR福間駅へ

9:00 JR不通、仕方なく風雨烈しい中を徒步20分
旧3号線バス停へ向う～ナフコ店前で待機25分バス
やっと来る。天神2丁目下車670円、バス乗換え薬
院大通まで180円、福銀下車。

11:50 到着。池田氏既に来り。岡村氏欠席

2人で封筒と宛名書き30通。

九州外会員への案内文はEメールにて竹村氏へ依託
退居21:30。帰路は幸いにして台風九州をそれ交通正
常復帰。バス180円 JR360円で無事帰宅。

6/20(金)

新聞4社向け荒書き2枚完成。23:30～6:00まで

6/21(土)13:30 熊本ロングステイ同好会代表 井出綱
代さんにTELし、総会参加を懇請する。

元会員中本夫婦に連絡し、会員復帰を懇請するも家
庭的事情で拒否される。(その後婦人の病気を知る)。
池田理事長に再度総合資料をファックスで送る。
会員外の戦友、学友、知人、地元友人等電話攻勢。
協力依頼し宛名書き8通で疲労困憊。

6/22(日)

12:30 フォサイス幸子(広島)にTEL～現状活動なし
との報受信。8通宛名書き～7通発送。

6/23 (月) 池田理事長より出席者未定の連絡あり
6/24 (火) 案内状コピー48枚、福間郵便局宛名書き
4枚～計18通発送。1440円。

6/25 (水) 16:00 会員大石田雄二社長に総会講演
依頼をするも出張で不在、前田さんに伝言依頼す。

6/26 (木) 竹村宅集合日・総合取組み問題種々検討

6/27 (金) 知人眞嶋さん、中門さん総会の受付快諾

6/28 (土)

懇親会場「天狗」へ 20人出席を連絡
三根誠(会員)より紀行文面白いから続けて呉れと
嬉しいお言葉。

6/29 (日)

懇親会用領収書購入

(熊本) 同好会々員数人遅れて来ると快諾。
北九州近在ホテル空室なし、只1軒福間駅近くに栄
屋旅館あり、21:20 契約す。

6/30 (月)

宿泊所ザッショノクマに、1軒あり
副理事長酒匂氏に、14年会報秋季号送付のお礼電話

7/1 (火)

11:00 竹村氏ホテルの件良策有った由。 為に早速
栄屋旅館キャンセル。

7/2 (水)

地元の回覧板に宣伝の直言依頼する。
次に図書館係長安藤氏に同様懇切丁寧に長時間説
明するも不成功。
池田理事長より大型封筒着(総会用資料4編)
来福講演者の件2,3日待って欲しいとTELあり。

7/3 (木)

地元の自治区連合会長目代氏宅 訪問～九州総会案
内文を掲示板に貼るべく依頼。20:45 山口の原田智
子さんよりFAX届く。

7/4 (金)

西日本新聞社よりOKと内容点検と添削のFAX届
く～折り返し即FAXを送る。

7/5 (土) 8:20～13:20 5時間ぶつ通し電話で勧誘を
続ける

①西本豊明 ②中川昭一 ③土居唯翁 ④山脇寅喜
⑤原田津多生 ⑥吉田輝一 ⑦重松秀明等の友人

役場に直行、広報秘書課係長、八尋氏出席
重松秀明氏へ大会資料を送る(本人要望)。

7/6 (日)

8:30～市川義夫に総会案内TEL、快諾なし。
15:00 山口会員顧問の福田修氏より出席のFAX

7/7 (月)

10:00～寺崎氏夫婦より出席快諾。
山口県宇部市会員 430号田村泰夫氏、明子夫妻マレ
ー・シアよりTELあり。14年10月より居留の由。
福岡ドーム内にて「キムタク」のライブ興業の為
に福岡市内周辺都市のホテル、旅館満杯を確認

7/8 (火)

西日本新聞よりTEL、本日掲載承認、大いに安堵す
る、途端に総会問合せ電話6本。

読売新聞三木田氏に掲載の要望、前向き検討の回答

7/9 (水)

読売新聞 宗像地区担当記者三木田氏に再度掲載の
要望

中門紀子さん、眞嶋さんに再確認と受付方依頼

7/10 (木)

竹村宅最終打合せ会施行～13:00～16:00まで～(岡
村氏30分遅れで) 計4人。

①ホテル手配の件 ②受付係要員 ③案内表示
④名札の件 ⑤お茶の用意 ⑥椅子の配列
⑦式次第進行要領 ⑧懇親会の会場の行き方
⑨金銭受領方法 ETC・・・。

16:00 竹村氏と中央市民センターの下見

7/11 (金)

7:15 池田理事長に博多筑紫口都ホテルロビー待合
せの連絡。
会員氏名表示～出席決定者24名～毛筆書き(テー
プで止める)

7/12 (土)

第一回九州支部総会設立大会～福岡中央市民セン
ター 13:00～17:00。
予想25人 出席見込みがなんと47名で大成功～
状況報告は会報に掲載済み～懇親会25名駅前「天
狗」で、池田理事長の万歳三唱で盛会を祝い終幕
す。

東海支部活動状況の報告

(2003年11月～2004年3月)

2003年11月9日 サロン会 愛知県青年会館
参加者 10名

今回開催場所が前回の中小企業センターから変った事と行楽シーズンで足並みがそろわなかつた。

- (1) 地区長の再選と連絡網の整備
- (2) 今後は例会サロン会は毎月第2日曜日 13:00～16:30 また会場は愛知県青年会館と決めておいて、その都度地区長からは連絡しない。
- 会員サイドから所属する地区長に参加するか否かを連絡する事。
- (3) 週日ランチ懇親会を原則的に毎月半ばに行う。日曜日に都合の付かない会員にもサロン会に出られるよう配慮。今後足立ひろ子様(81)に世話役をお願いする事になりました。

12月10日 週日サロン会 名古屋観光ホテル
レストラン ジャルダン 参加者 12名

12月14日 サロン会 愛知県青年会館

参加者 22名

浅野様(530)による講演
演題“スキーバダイビング”

1月11日 定例会 新年会

長島温泉ガーデンホテル 参加者 31名、見学者 16名

東海支部役員と組織図の承認

支部長 487 横井保夫

副支部長 94 高橋昭

副支部長 554 笠井幸司

運営部長 445 山本信

総務(正) 570 山田善一

総務(副) 543 清水重一

会計(正) 445 山本信

会計(副) 549 松本美代子

催事(正) 640 丸山武揚

催事(副) 643 鈴木憲介

催事(副) 81 足立ひろ子

地区長 名古屋北(正) 571 西口敏弘

名古屋南(正) 606 井本昇

(副) 530 浅野光利

東海支部長 横井保夫(487)

愛知 (正) 643 鈴井憲介

(副) 640 丸山武揚

岐阜 (正) 554 笠井幸司

三重 (正) 155 宇井泰業

(副) 563 松井忠市

2月8日 サロン会 愛知県青年会館

参加者 16名

須崎様(533)講演 中国を旅して

3月14日 サロン会 愛知県青年会館 参加者

27名(見学者1名) 懇親会 百楽(中華料理)

- ・自己紹介。今後は名札を胸につける事を徹底。
- ・4月以降東海支部定例会、サロン会、懇親会以外に希望する事として

英会話、タイ語会話、Eメール、パソコン

・支部全員がEメールをこなせる事をを目指す。

・高橋昭様(94)に講師をお願いする。

*反省事項。体験ステイで海外支部に御世話を願う場合、南の会必携保存版をよく読んで時間的金銭的迷惑をかけないよう心がけ、謝礼金なども目途をつけておく。

笠井氏(554)講演 ケアンズ体験ステイ

報告—特に住宅、食べ物事情、生活費等

宇井さん(157)講演

チェンマイゴルフ事情。(詳細後述)

3月24日 週日サロン会 名古屋アソシアターミナルホテル 参加者 21名(見学者2名)

高橋昭氏(94)ブルガリヤ体験ステイ

横井保夫(487)チェンマイ体験ステイ



チェンマイ フラワーフェスティバル

チェンマイゴルフ事情について

宇井さん（157）講演

毎年12月中旬から1月、2月中旬まで韓国ゴルフツアーにチェンマイの有名ゴルフコースは占拠される傾向がありこの傾向は年々強くなる。

このため、良い時間帯での予約は大変困難である。今回の体験旅行中は早朝暗いうちからのティーショットとか一組6人打ちなどチェンマイならではの体験をしました。2月後半に入つて鳥インフルエンザのためゴルフトーがキャンセル続出し急激に予約状況が改善したもののが来年以降の参考にしてください。

驚いた事にチェンマイでは若い現役組より年寄りリタイヤ組の方が元気である事でした。

横井（487）報告

上記の宇井さん痛い足を引きずつて軽くハーフ40代前半で回られたのはさすがですね。

浅野さん（530）のゴルフ門下生の水野さん（537）の生まれて始めてのゴルフはチェンライでされました、140台は立派、将来が楽しみです。

岸さん（584）は何年ぶりかでクラブを握られ（奥さんのクラブ）ましたが208ヤードのショートホールをピン横2メートルにワンオンしこれを沈めてパーです。奥様も二桁でまわられた？

酒井さん（556）500ヤードロングホールで2オンを狙つての2打目は大空振り（ボールはびくともしない）3打目が見事グリーンを捕らえ、実質2オンともいえる3オンでナイスパーなどなどは、東海支部後世の語り草になるでしょう。尚、今回ゴルフ場スタート予約確保ではチェンマイでロングステイ中の東海支部近藤様（608）の絶大なご支援をえました事御礼申し上げます。

東海支部チェンマイ体験ステイについて

1月—3月上半、東海支部より以下多数のチェンマイ体験ステイを経験されました。

横井保夫・範子（487） 1月12日—3月9日

小坂宇治夫（589） 井本昇（606）

1月16日—1月26日

山田善一（570）水野清美（537） 浅野光利（530）

松永信二（512）

1月29日から1ヶ月間

山本信（445） 松本美代子

2月10日—2月15日

宇井泰業（155）松井忠市（563）

米戸秀夫・雅子（339）古川龍夫・孝子（538）

2月10日—2月17日

酒井靖夫

2月16日—3月13日

三宅晴子（598）

2月19日—2月24日

笠井幸司・多津子（554）2月19日—2月26日

岸祥介・ケイ子（584）2月20日—2月29日

チェンマイでの主な活動

- ・ゴルフ・食事会
- ・タイ古式マッサージ
- ・コンドー探し
- ・病院・銀行・イミグレーション訪問
- ・観光：象のり、ドイステープ寺院、山岳民族訪問、ピン川クルージング、ターペー歩行者天国
- ・2月6日—8日のチェンマイ花祭りパレード
- ・2月24日 チェンマイ支部開催新年会参加
- ・CLL（チェンマイロングステイクラブ）開催の催事・例会などに参加（ゴルフ、料理教室、食事会、例会など）

旅のスポット情報

入、出港スタンプの確認は確実に

（外務省情報より）

—タイの「ずさんな審査—

その1 2004年2月4日、日本人男性旅行者が、バンコク空港にて30日以内の無査証で入国、入国日を1月4日と、誤った日付のスタンプを押されたため、数日後、出国しようとしたところ、不法滞在で罰金を徴収された。

その2 チェンマイ空港で入国した家族親族6人のうち、3人は当日付け、ところが後の3人のは、9日前となっていた？ スタンプの日付が不法滞在の判断基準となるから、要注意である。



会主催の旅行会に関するアンケート調査の結果報告



平成16年1月27日から2月29日までの調査

受理日	4
1月27日	4
1月28日	4
1月29日	7
1月30日	3
1月31日	6
2月1日	10
2月2日	4
2月3日	2
2月4日	2
2月5日	2
2月6日	3
2月7日	2
2月8日	4
2月9日	3
2月10日	3
2月11日	
2月12日	
2月13日	1
2月14日	1
2月15日	1
2月16日	
2月17日	
2月18日	
2月19日	2
2月20日	1
2月21日	1
2月22日	
2月23日	
2月24日	1
2月25日	1
2月26日	
2月27日	
2月28日	4

72

希望地	複数回答
お任せ	2
1 マニラ	2
2 セブ	9
3 ダバオ	11
4 バリ	4
5 バンコク	1
6 チェンマイ	7
7 ペナン	9
8 キャメロン	3
9 KK	3
10 KL	0
11 パース	7
12 メルボルン	1
13 シドニー	1
14 GC	1
15 ケアンズ	2
16 ハワイ	6
17 オークランド	1
18 クライストチャーチ	5
無回答	1
合計	72

時期	複数回答
何時でも	4
1月	1
2月	11
3月	1
4月	5
5月	5
6月	6
7月	4
8月	4
9月	9
10月	4
11月	7
12月	4
無回答	7
合計	72

日数	複数回答
5	4
6	1
7	13
8	2
9	2
10	19
11	1
12	0
13	0
14	18
15	8
16	1
17	5
18	2
19	7
20	1
21	0
22	0
23	0
24	8
25	8
30	1
120	1
無回答	7
合計	72

予算	複数回答
合わせる	2
8	0
9	0
10	9
11	0
12	2
13	2
14	0
15	18
16	1
17	0
18	2
19	0
20	17
21	0
22	0
23	0
24	8
25	8
30	1
120	1
無回答	1
合計	72



- ★返信総数72通でその内8通がMLでした。
- ★希望地、時期、は複数回答も参考に表示いたしました。
- ★500名ほどの会員のうちの約14.4%のアンケート結果です。
- ★単に総括しますと、2月ペナン10日間予算15万円となります。

ご回答頂きました会員各位に厚くお礼申
じ上げます

南国暮らしの会

理事長 池田徳三郎

調査委員会 小林康紀 市東明義

アンケート調査の 何か一言

- 1 南の会の原点、フリピンを再度企画。
 2 会員諸氏といけるならばどこでも良い。
 3 仕事やめて早くLSしたい。
 4 会がフリピンのイメージを一助する。
 5 会の旅行は不参加、セブにおいての時は御世話します。
 6 個人又は有志で計画すればよい、会の計画が自分に会えば積極的に参加する。
 7 ダバオでLS、格安ホテル教えて。
 8 季節は秋がいい。
 9 現在歩行困難。
 10 安心、安全なベストシーズンを。
 11 一応の目安でこだわらない。
 12 パースに行ったが花の時期には早かった、花のきれいな時期に行きたい。
 13 会主催の旅行で親睦を図れば。 14ご苦労様
 15 サロン会でスライド＆楽しい話を聞いたのでチェンマイへ行きたい。
 16 パースの町、海、ホテル等を見学し、会の仲間が増える事を希望。
 17 フリピンに興味あり、個人では不安なので会で実現を。
 18 17年7月その後LS。
 19 ダバオへ行きたい、なかなかいけない。
 20 ハワイLS希望、オワフ、コンド所有、バリ計画希望。
 21 3年後の為に色々な場所を選んだ。
 22 2月チェンマイ、バンコクの体験ステーする。ペナンにも行きたい。
 23 長期滞在のハードルが高くなっている、パースの環境を把握しビザ取得の判断をしたい。
 24 旅なれた人たちの旅行に興味あ 25 フリピンに行きたい、情報待つ。
 26 夫婦とも現役、希望を書いた。
 27 4月から1年チェンマイでLS、ケアンズ＆コタキナバルならチェンマイから参加する。
 28 仮定的回答をした。
 29 ゴールドコーストの各方面へ足を伸ばしたい。
 30 リタイアーまだ時間かかる、情報楽しみに年一度海外へ。
 31 3～4ヶ所の計画すれば参加者増える。
 32 今56歳60歳からLSする。
 33 現地会員と交流、自由時間が持てるように考慮して。
 34 何かお手伝いできる事あれば連 35 毎年一回計画を。
 36 会で決定したところへ参加する。 37 ぜひ企画を
 38 現地生活、2～3ヶ月体験したい。
 39 人気の高い順に行きたい。
 40 LS地は安全、ホスピタリティー、日本人に好意的、どなたかご一緒に。
 41 夫婦で参加、実現をさせて。 42 計画にあたって打ち合わせが必要。
 43 現在介護等のため無理。いつの日にかと、必ずと思っている。
 44 ぜひ参加したい。企画を楽しみに。
 45 リタイアまで数年あり、機会があれば色々な所へ、見て聞いて決める。



ペナン支部からの要望

会員の皆様の応援やマスコミの影響に寄りまして、最近ペナンを訪れる南の会の会員の方々が急増しております。ペナン支部として有り難い事でありながら、現地の対応で困惑する場面も出て来ております。そんな中でペナン在住の会員で話し合いの結果、今後ペナンに来られます会員の皆様に以下の内容をご理解、ご尊守して頂けます様御願いする次第です。

1. 前提：ペナン支部を含む海外会員の主旨は、現地での LS を楽しむ事が中心です。勿論、ペナン支部のメンバーとして、ペナンへ来られる皆様の LS のお世話やお手伝いをする事に責任を感じておりますが、ボランティアが基本であり、当然その内容には限界があります。まず第一に、観光のガイドは致しません。自宅訪問も各自メンバーの判断に寄るもので、必ず会員の自宅を訪問出来ると想定しないで下さい。第二に会員がペナンに来られた際、お食事に付き合うのも各自メンバーの判断で必ず食事を一緒にしてくれると期待しないで下さい。街の喫茶店等でお会いし、お話しする分は問題ありません。第三に、ゴルフ プレーの同伴に付いても同様です。ペナンの会員が出来ない内容は、適当な業者等を紹介致します。
2. 御願い：まずペナンを LS やその下見で訪れ、ペナン支部のメンバーと会いたい希望のある方は、以下の内容をはっきりと事前にお知らせ下さい。そして支部長の木村なり代理の石原または竹岡にメールかファックスで前もって必ずご連絡下さい。

- 1) 滞在期間、滞在のホテル
- 2) 滞在中に希望される事：例）観光、ロングステイに関する施設案内、自宅訪問、不動産視察、退職者ビザの件、ゴルフ等

前述の通り、希望の内容をお教え頂ければ、会員がボランティアで出来る事以上の内容は適当な業者を紹介致します。

最近急増するペナンでのロングステイヤーに伴い、人間関係のルールや礼儀を守る重要さを皆が痛感しております。互いに快適で永い友人関係を保つ上で、是非以上の内容を皆様にご理解頂き、ご尊守頂けます様御願い申し上げます。

ペナン 支部

支部長 木村 義光 (y-kimura@comlink.ne.jp, Fax: 604-899-4941)

支部長代理 石原 彰太郎 (shotaro@tm.net.my, Fax: 604-228-8540)

総務担当 竹岡 隆志(takeoka1943@yahoo.co.jp, Fax: 604-881-4522)

〈ペナン支部からの要望〉について

この件については、予てよりの、憂慮事項であり、会報でも毎号「海外会員への心遣い」を掲載して注意を喚起してまいりました。このままでは、海外会員の「生活破壊」にもなりかねません。再度、ご熟読のうえ、ご配慮願います。

海外会員への心遣い

副理事長(事務局海外推進担当) 宮崎 哲郎

本会々員は南の国での生活を満喫するために、自ら希望滞在地の調査訪問が必須不可欠な事です。そこで初めての現地訪問となりますと色々不安な事もありますので、現地に於ける豊富な情報と経験をお持ちの海外会員にサポートをお願いするのが最も有益で効率的な方法だと思います。

幸いなことに当会の海外会員の方々は皆さんはボランティア精神に富んだ良い方ばかりで、訪問される方々のお世話をする事に積極的です。

当初は会員数も少なく同じ仲間意識と訪問者の一般常識を信じ、海外会員は対処しておりましたが、会員数増加に伴い残念ながら一部の方々ですが非常識な言動を行い、その誠意を踏みにじるような事が最近増加し海外会員を悩ませています。そこで事務局からのお願いですが海外会員の方への心使いを下記の様にして頂きお互いに気持の良い「旅」が出来る様切に希望いたします。

記

- 1.) 訪問される方、サポートする側両方ともフィフティ・フィフティの関係です。このことを忘れないで下さい。よくある事ですが現地では自分が「ボランティアされるのが当然」と勘違いされている方がおられる事です。海外会員の方は皆さんをお世話することに喜びを感じて親切にされているのです。
案内はしますが「運転手」でもなく「ガイド」でもないのです。現地会員をその地では自分より経験、情報の豊富な「先輩」として又会の「友人」として接する気持ちが欲しいものです。
- 2.) 海外会員の方もそこで生活をしているのですから自分の都合のつく時間にお手伝いしています。ハードなスケジュールをお願いしないようにして下さい。
- 3.) 皆さんを案内するためには車を使いますのでガソリン代、ホテルを予約したりするには電話料等費用が要ります。これら発生費用を負担するのは当然受益者です。当会ではそのために「海外会員への謝礼金の目安」を決めております。
お配りの「南の会必携8. 生活情報①」を渡航前に良くお読みになってこれを目安に現地でお礼の気持ちを表してください。金額の多寡ではなく感謝の気持ちが一番大事なことと思います。
なを現地でどうすれば良いかご相談があれば出発前に事務局へお問い合わせください。
- 4.) 案内時の交通事故も皆無とはいえません。又急病も起ります。これらに対する傷害、疾病保険の加入も怠り無く準備して現地会員に迷惑を掛けない配慮をして訪問してください。

5.) 食事を一緒にした時は皆さんの為に時間を費やしているのですからお礼の一部として当然行かれた方が現地会員の分は負担してください。

6.) 現地でサポートされる方は誠心誠意対応されておられますので帰国後はご挨拶をお忘れなく！ せめてメール等で「無事帰国」だけでも現地会員としては報われた気持になります。

以上それは「常識で分かっているよ、煩わしいなー」と云われそうですが現実はこの常識の通じない方が残念ながらおられるのです。「いい年をして」とお互い云われない様にしましょう。

そこで事務局よりのお願いです。

現在「南の会」の海外会員が居られる所は、マニラ、セブ、クアラルンプール、ペナン、バンコク、チェンマイ、ロタ、パース、等です。会員の方でこの地区に行かれ、海外会員にお世話になられる予定の方は是非出発前に事務局海外推進担当(宮崎)または会員担当(酒匂)へご連絡願います。

メールは tetsumiyazaki@hotmail.com (宮崎)
sakou-k@nyc.odn.ne.jp (酒匂) です。

現地での必要経費等のご相談をし、その地でお互いに嫌な思いをしないで済むようにしたいと考えております。

海外会員メールアドレス(参考資料)

マニラ	塩見氏	<u>shiom@compass.com.ph</u>
セブ	鈴木氏	<u>pillory@rd6.so-net.ne.jp</u>
クアラ	末 氏	<u>suehdk@arc.net.my</u>
ペナン	木村氏	<u>y-kimura@comlink.ne.jp</u>
バンコク	未 定	
チェンマイ	鈴木氏	<u>kuro2@loxinfo.co.th</u>
ロタ	山本氏	<u>yamarota@gtepacific.net</u>
パース	藤本氏	<u>yiu62954@nifty.com</u>

皆さんとの連絡はメール又は電話で。FAXはチェンマイの場合受信一回に就き約60円かかり、受けられる方に費用が発生しますのでご留意のうえ後日精算されるようお願いします。

編集委員より

編集後記

できればともかく、春季号を皆様にお届けでき、ホッとしている担当の平尾守満です。これも原稿をお寄せいただいた皆様のご協力のお陰です。心より感謝申し上げます。こんな責任ある、大変なこと「もう二度とやりたくない」が正直な実感です。それだけに、前任の小川護雄氏はじめ編集委員諸氏のご苦労を知ることができました。遅ればせながら、あらためて、感謝申し上げます。「ありがとうございました」。各号2名担当、計8名体制が取れば・・・。これ、「本音のつぶやき」です。今回、会報編集に関わった経験から、予てより論議されている「会報のメール発信」は、“否である”といえることです。

理由 その1 パソコンをやっていない会員には届かないため、別途の方法も必要となる。
その2 一時に大量の情報を発信するには、困難性がある。
その3 ウイルス対策のため、添付資料の「受信拒否設定」が増えている。
その4 受信できても、開けないものがある（全部の場合も、一部の場合もあり）。
その5 会報担当者は、ある程度パソコンのノウハウを知っていなければならない。
これらが、クリアされないかぎり、「現行方式でいくしかない」こんな気がしています。

次回、夏季号は 7月発行です。 原稿締め切りは、6月15日です。

<編集委員>

龍野 宏	TEL 048-781-4929	Eメール hiro.tatsuno@nifty.ne.jp
細田 良子	TEL 045-832-5615	Eメール r-hosoda@jb3.So-net.ne.jp
島田 栄一	TEL 042-365-5287	Eメール sa.eiichi@r3.dion.ne.jp
平尾 守満	TEL 0426-26-3665	Eメール hirao.morimitsu@nifty.com

記事の無断転載、複製を禁じます

発行者 特定非営利活動法人（NPO法人）

「南国暮らしの会」

理事長 池田 徳三郎

〒 140-0002 東京都品川区東品川3-22-20-1208

TEL/FAX 03-3472-9954

NANGOKUNANGOKUNANGOKU



NANGOKUNANGOKUNANGOKU